

フィリピン共和国  
指紋採取・活用能力向上プロジェクト  
終了時評価調査報告書

平成25年5月  
(2013年)

独立行政法人国際協力機構  
産業開発・公共政策部

産公
JR
13-103

フィリピン共和国  
指紋採取・活用能力向上プロジェクト  
終了時評価調査報告書

平成25年5月  
(2013年)

独立行政法人国際協力機構  
産業開発・公共政策部

## 序 文

フィリピン共和国（以下、「フィリピン」と記す）では、近年の経済活動の発展及び国際化の進展に伴い、犯罪の多様化、凶悪化が進んでいます。このためフィリピン国家警察では、わが国との初動捜査や鑑識分野の技術協力の成果により、大量に蓄積してきた採取指紋のデータベース化をめざし、被疑者及び犯罪者指紋と現場遺留指紋とを自動で照合することで、被疑者の特定を迅速かつ効率的に行うことを目的として「指紋自動識別システム整備計画」を策定しました。同計画のためのシステム整備については、わが国政府が無償資金協力の要請を受け、2003年度「指紋自動識別システム整備計画」（9億7,500万円）により供与されました。

しかし、同システムの有効活用には、指紋電子データ化の際の、オペレーターによる遺留指紋トレース技術、指紋照合時の照合、鑑定技術の向上が必要不可欠であることから、フィリピン政府からわが国に「指紋自動識別装置（AFIS）運用強化プロジェクト」が要請され、2006年7月から計4年間の協力が実施されました。

同協力により、遺留指紋と押なつ指紋の登録・照会に係る基礎技術が習得され、指紋照会の合致数（ヒット数）も増加したものの、犯罪現場からの被疑者押なつ指紋や遺留指紋の送付数が限定されているため、AFISの機能を十分活用しきれていない問題がありました。そのため、押なつ指紋及び遺留指紋の採取・送付体制を強化することを通して、AFIS活用能力を向上させる協力が新たにフィリピン政府から要請されたことを受けて、2010年7月から3年間、「指紋採取・活用能力向上プロジェクト」を実施してきました。

今般、本プロジェクトが、終了まで半年という時点に至ったことから、終了時評価調査を実施し、プロジェクトの活動の実績、成果、課題等を分析するとともに、プロジェクトの残り期間で取り組むべき活動等についてフィリピン側関係者と協議しました。本報告書は、今回の終了時評価調査及び協議結果を取りまとめたものであり、今後の協力事業を効果的かつ効率的に実施していくための参考として、活用されることを願うものです。

最後に、本調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 25 年 5 月

独立行政法人国際協力機構

産業開発・公共政策部長 入柿 秀俊

# 目 次

序 文

目 次

プロジェクト位置図

現地調査写真

略語表

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の背景	1
1-2 調査団派遣の目的	1
1-3 調査団構成	2
1-4 調査日程	2
1-5 主要面談者	2
第2章 プロジェクトの実績と達成度	3
2-1 投入実績	3
2-1-1 日本側投入	3
2-1-2 フィリピン側投入	4
2-2 活動実績	5
2-3 プロジェクト目標の達成度	5
2-4 上位目標の達成見込み	6
2-5 各成果の達成度	6
2-5-1 成果1の達成状況	6
2-5-2 成果2の達成状況	9
2-6 実施プロセスの評価	10
第3章 プロジェクトの5項目評価結果	11
3-1 妥当性	11
3-2 有効性	12
3-3 効率性	12
3-4 インパクト	13
3-5 持続性	13
3-6 結 論	14
第4章 まとめ	15
4-1 今後に向けての提言	15
4-1-1 プロジェクト期間中における活動に関する提言	15

4-1-2	プロジェクト期間終了後も含めた対応に関する提言	15
4-2	類似案件実施への教訓	15
4-3	調査団長所感	15

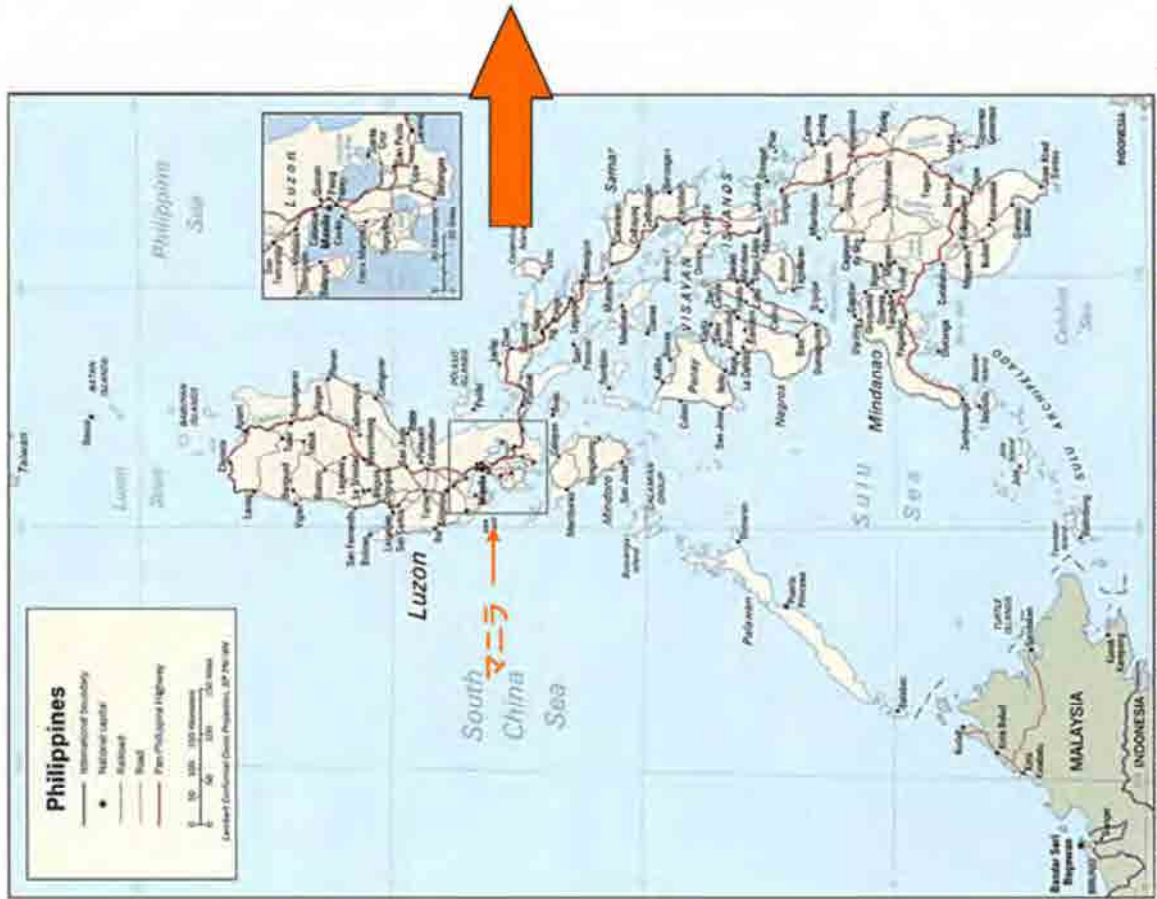
#### 付属資料

1.	調査日程	19
2.	主要面談者リスト	21
3.	終了時評価ミニッツ（含むPDM）	22
4.	主要面談記録	54
5.	PNP CLによる総括プレゼンテーション資料	63

# プロジェクト位置図



URL: <http://www.bfhomes.net>



URL: The Official Web Site of the Republic of the Philippines (<http://www.gov.ph/about/philman.asp>)

マニラ首都圏

## 現地調査写真



AFIS での指紋照合作業の様子



10 指指紋登録カードの一例



フィリピン国家警察長官表敬  
(2013 年 2 月 22 日)



フィリピン国家警察、犯罪研究所との  
M/M 協議 (2013 年 4 月 2 日)



フィリピン国家警察によるプロジェクト総括  
プレゼンテーション (2013 年 4 月 3 日)



M/M 署名式 (2013 年 4 月 3 日)

## 略 語 表

略 語	欧 文	和 文
AFIS	Automated Fingerprint Identification System	指紋自動識別システム
CL	Crime Laboratory	犯罪科学研究所
C/P	Counterpart	カウンターパート
DAC	Development Assistance Committee	(OECD の) 開発援助委員会
DIDM	Directorate of Investigation and Detective Management	捜査局
EPD	Eastern Police District	東部方面
FPID	Fingerprint Identification Division	指紋鑑定課
GoJ	The Government of Japan	日本政府
GoP	The Government of the Philippines	フィリピン政府
GPPB	Government Procurement Policy Board	政府調達政策委員会
HQ	Headquarters	本部
ICT	Information and Communication Technology	情報通信技術
ICTP	In-Country Training Program	現地国内研修
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
LOIs	Letter of Instructions	長官通達
M/M	Minutes of Meeting	ミニッツ (協議議事録)
MPD	Manila Police District	マニラ方面
NCRPO	National Capital Region Police Office	首都圏警察本部
NPD	Northern Police District	北部方面
OJT	On-the-Job Training	オンザジョブ・トレーニング
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PDP	Philippine Development Plan	フィリピン開発計画
PIR	Project Implementation Review	プロジェクト実施レビュー
PMC	Project Management Committee	プロジェクト管理委員会
PNP	Philippine National Police	フィリピン国家警察
PO	Plan of Operations	活動計画
QCPD	Quezon City Police District	ケソン方面
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SMS	Short Message Service	携帯メール (携帯電話によるテキスト送信サービス)



SOCO	Scene of Crime Operations	機動鑑識隊
SOPs	Standard Operating Procedures	標準実施手続き
SPD	Southern Police District	南部方面
TCP	Technical Cooperation Project	技術協力プロジェクト
TOT	Training of Trainers	講師研修
TWG	Technical Working Group	テクニカル・ワーキング・グループ (技術作業部会)

## 評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：フィリピン共和国	案件名：指紋採取・活用能力向上プロジェクト
分野：ガバナンスー公共安全	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：産業開発・公共政策部	協力金額（評価時点）：約 7,000 万円
協力期間 (R/D) 2010年7月13日 2010年7月～2013年7月 (3年間)	先方関係機関：フィリピン国家警察 (PNP)
	日本側協力機関：警察庁
	他の関連協力： 「指紋自動識別システム整備計画 (2003)」 「指紋自動識別装置 (AFIS) 運用強化プロジェクト (2006-2010)」
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>フィリピン共和国（以下、「フィリピン」と記す）では、近年の経済活動の発展及び国際化の進展に伴い、犯罪の多様化、凶悪化が進んでいる。このためフィリピン国家警察（Philippine National Police：PNP）では、このような犯罪動向に対処するため科学犯罪捜査の強化を進めており、わが国も初動捜査や鑑識分野の技術協力を実施し、PNPの科学的な犯罪捜査能力強化を支援してきている。これら技術協力の成果により、犯罪現場における指紋採取技術が向上し、犯罪者検挙時に採取する指紋カードについても着実に収集・保管されている。しかし、指紋カードと犯罪現場において採取される遺留指紋を目視により確認していたため、指紋照合による被疑者特定は極めて困難な状況であった。</p> <p>このような状況の下、フィリピン政府（GoP）は大量に保管されている指紋のデータベース化をめざし、被疑者及び犯罪者指紋と現場遺留指紋とを自動で照合することで、被疑者の特定を迅速かつ効率的に行うことを目的として「指紋自動識別システム整備計画」を策定した。同計画のためのシステム整備については、わが国政府が無償資金協力の要請を受け、2003年度「指紋自動識別システム整備計画」（9億7,500万円）により供与された。</p> <p>しかし、同システムの有効活用には、指紋電子データ化の際の、オペレーターによる遺留指紋トレース<sup>1</sup>技術、指紋照合時の照合、鑑定技術の向上が必要不可欠であることから、GoPからわが国に「指紋自動識別装置（AFIS<sup>2</sup>）運用強化プロジェクト」が要請され、2006年7月から計4年間の協力が実施された。</p> <p>同協力により、遺留指紋と押なつ指紋の登録・照会に係る基礎技術が習得され、指紋照会の合致数（ヒット数）も増加した。しかし、犯罪現場からの被疑者押なつ指紋や遺留指紋の送付数が限定的であるため、AFISの機能を十分活用し切れていないという問題があった。そのため、GoPからの要請を受けて、押なつ指紋及び遺留指紋の採取・送付体制を強化することを通して、AFIS活用能力を向上させることを目的として、「指紋採取・活用能力向上プロジェクト（以下、本プロジェクト）」を2010年7月から2013年7月までの3年間の協力期間で実施してきた。</p>	

<sup>1</sup> 遺留指紋のうち不完全な形状の鱗遺留指紋について、指紋の一部から類推し、指紋全体のイメージを作成する作業。

<sup>2</sup> Automated Fingerprint Identification System の略。

## 1-2 協力内容

### <プロジェクト概要>

本プロジェクトは、科学捜査に欠かせない指紋照合システムの運用促進及び、指紋照合・鑑定技術能力向上のための技術指導を通じた高度な警察科学捜査機能促進を図るものである。

#### (1) 上位目標

AFIS の活用により犯罪捜査能力が向上する。

#### (2) プロジェクト目標

指紋採取・送付から鑑定に到る一連の手續にかかる体制を強化することを通じて、AFIS の活用が強化される。

#### (3) 成果

1. モデル方面本部等からの被疑者押なつ指紋及び遺留指紋の採取・送付体制が強化される。
2. 犯罪科学研究所 (CL) において送付された押なつ指紋・遺留指紋の AFIS による登録、照合、鑑定体制が強化される。

#### (4) プロジェクト対象地域：モデル警察方面及び全国

#### (5) 投入 (評価時点)

日本側：総投入額約 7,000 万円

専門家派遣：長期延べ 3 名、短期延べ 7 名

研修員受入 (本邦)：2 名

ローカルコスト負担：1,080 万 2,000 円

相手国側：

カウンターパート (C/P) 配置：延べ 50 名

土地・施設提供：PNP 本部内の専門家執務室、付帯資機材及び電気・水道設備、研修施設

ローカルコスト負担：AFIS 維持管理費用、C/P 旅費等

## 2. 評価調査団の概要

調査者	子浦 陽一 星野 吉宏 金田 雅之 板垣 啓子	総 括 警察行政 評価企画 評価分析	JICA 産業開発・公共政策部法・司法課課長 警察庁長官官房国際課課長補佐 JICA 産業開発・公共政策部法・司法課職員 グローバルリンクマネージメント株式会社 研究員
調査期間	2013 年 2 月 17 日～3 月 1 日 2013 年 4 月 1～4 日 (第 2 次)		評価種類：終了時評価

## 3. 評価結果の概要

### 3-1 実績の確認

#### <プロジェクト目標の達成度>

プロジェクト目標は達成される見込みである。本プロジェクトの目標である「AFIS の活用強

化」については、これまでに AFIS 活用に関する PNP 長官通達 (LOI) や各種実務要領等で指紋採取から鑑定までの手続き等が既に策定・発出されており、本プロジェクトで導入した現場捜査官による遺留指紋採取という新たな取り組みの成果を踏まえ、既存の実務要領、マニュアル及びガイドライン等の適切な改訂案を策定・提案することを通じ、AFIS 活用の体制強化が図られるものと考えられる。また、指標である指紋照会のヒット数についても着実な増加がみられ、これまでの増加水準が維持されれば、プロジェクト終了までに目標値が達成される見込みである。

#### <成果 1 >

本成果はおおむね達成できる見込みである。プロジェクトでは現場捜査官を対象とした 3 期にわたる研修、意識啓蒙活動等を実施しており、押捺及び遺留指紋の採取・送付数は着実に増加し、指標の目標値を達成する見込みは高い。また、制度面でも指紋採取・送付に係る各種の公的な通達が発出されており、体制が強化されていると判断された。

#### <成果 2 >

本成果はおおむね達成できる見込みである。AFIS オペレーター及び指紋鑑定官に対する講師研修 (TOT) が実施され、うち 8 名が職場内研修や、捜査刑事局傘下の研修機関において講師として AFIS 活用及び指紋採取技術に関する研修での講義演習を担当している。指紋登録・照合件数についても大幅な伸びが確認されており、既に目標値のおよそ 7 割以上が達成されている。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性：おおむね妥当である。

本プロジェクトの実施はおおむね妥当である。GoP の開発計画の方向性及び PNP の総合移行プログラムの重点分野に変更はない。一方、本プロジェクトの実施は担保されているものの、日本の協力政策上の重要性は低下している。指紋採取・送付から登録・照合に至る一連の体制強化を通じて AFIS 活用実績が向上したことへの PNP からの評価は高く、日本の技術優位性のある分野における過去の協力成果を更に発展・拡大させることをめざした本プロジェクトは、当該セクターのニーズに対する適切な対応、アプローチであったといえる。

#### (2) 有効性：高い

これまでの活動実績にかんがみ、協力期間内に成果が達成される見込みは高い。計画上、現場レベルでの採取・送付に係る技能向上と本部 CL での指紋登録・照合能力の強化はいずれも AFIS 活用の強化に不可欠な要素であり、成果からプロジェクト目標に至る論理性は妥当なものである。C/P や研修受講者の人事配置上の課題はあったものの、捜査におけるチーム制や表彰制度の導入等の効果もあり、これら成果は着実に達成されつつあり、プロジェクト目標である AFIS 活用能力強化に貢献していると考えられることから、プロジェクト実施の有効性は高いと判断される。

#### (3) 効率性：高い

本プロジェクトは小規模案件であり、他の類似案件に比して投入は大きくない一方、モデル地域の拡大など、当初の想定を超えた広がりも生み出されており、効率性は高いと判

断される。専門家及び C/P の配置、機材供与やプロジェクト運営経費負担等、日本、フィリピン側双方の投入に過不足はなかったが、C/P の頻繁な異動が問題として指摘された。また、現地国内研修 (ICTP) や個別専門家派遣等、他の JICA 協力との連携は、効率的な活動実施に貢献した。

(4) インパクト：正のインパクト・中程度

モデル活動対象地域以外でも AFIS・指紋に関する関心が高まったこと、捜査員と CL 職員の密接な関係が構築されたことなど、プロジェクト活動のポジティブな効果、影響が確認され、ネガティブな効果、影響は特定されなかった。上位目標達成へのインパクトに関しても一定の正の効果が予想される一方、AFIS 活用による犯罪解決という最終的な結果につながるインパクトを生み出すには至っておらず、今後、PNP として組織的に取り組むべき課題のみならず、司法分野における取り組みの必要性も指摘されている。

(5) 持続性：中程度

GoP の警察セクターにおける科学捜査強化の政策的方向性は今後も継続的に重視される見込みであり、政策・制度面での持続性は高い。PNP が AFIS 運用を継続・拡大していく意欲・オーナーシップ意識は高く、財政面の持続性に期待がもてる一方で、頻繁な人事異動や研修修了後の捜査員の配置等、組織面では課題が散見される。技術面では、耐用期限に至っている AFIS に関し、蓄積データの互換性を確保する形での迅速な更新がなされることが最も重要な前提である。さらに、今後、着実な実践経験の積み重ねを通じた捜査官及び AFIS オペレーターや鑑識官の技術レベルの一層の習熟が期待されるとともに、遺留指紋保存に関するデジタル化等の方策を模索することによる持続性の確保が必要と考えられる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

該当なし。

(2) 実施プロセスに関すること

首都圏警察本部 (NCRPO) が警察改革のための組織的な取り組みの一環として、複数の捜査官から構成される「捜査チーム」による現場検証の制度を導入していたため、プロジェクトの研修を受講した捜査員の経験蓄積や他の捜査員への現場指導の機会が得られ、成果達成に貢献した。また、プロジェクトが導入した表彰制度は、捜査官個人の意欲向上のみならず、管理職員への理解促進・意識啓蒙にも効果的であった。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

該当なし。

(2) 実施プロセスに関すること

幹部職員の異動により意思決定ポストが空席となり、プロジェクト活動に必要な内部通達の発出等に支障を来すなど、人事異動、特に管理職レベルの C/P の頻繁な交代は、プロジェクトの円滑な実施に対する阻害要因となった。

### 3-5 結 論

上述のとおり、本プロジェクト目標はプロジェクト期間中におおむね達成される見込みであり、プロジェクトは予定どおり 2013 年 7 月に終了する。

プロジェクト終了後は、フィリピン側が、指紋鑑識の TOT に関する ICTP や現在派遣中の鑑識・初動捜査の個別専門家による関連分野の支援も活用しつつ、以下の提言も踏まえて AFIS の更なる活用に向けた取り組みを実施することを期待する。

### 3-6 提 言

<プロジェクト期間中における活動に関する提言>

#### (1) 現場捜査官による遺留指紋採取・送付の促進

AFIS の一層の活用強化のためにも、遺留指紋の採取・送付数を増加させるための取り組みを一層強化していくことが必要である。

<プロジェクト期間終了後も含めた対応に関する提言>

#### (1) AFIS の更新

本プロジェクトの成果がプロジェクト期間終了後も持続・発展するためには、AFIS の更新のために必要な措置が、GoP 内において滞りなく行われる必要がある。

#### (2) 指示文書の発出等

本プロジェクトの成果を定着させていくために、本プロジェクトの成果を踏まえて遺留指紋の採取、送付及び鑑定に関する既存の実務要領やガイドライン等の改訂や LOI 等の指示文書の発出を行っていく必要がある。

#### (3) 実績モニタリング

指紋採取・送付・登録に関する体制整備のためにも、実績モニタリングを充実させて、常に改善を図っていく必要がある。

#### (4) 遺留指紋登録のデジタル化

現在使用している白黒フィルムは、将来的には入手が困難となる可能性があるため、持続性確保の観点からも、証拠能力を維持した形での改ざん防止措置を含むデジタル化に向けた方策につき、検討・採用する必要がある。

### 3-7 教 訓

#### (1) 適切な関係部局の関与

プロジェクト目標を達成するために、本プロジェクトでは、CL のみではなく、捜査局も C/P に加えてプロジェクトを実施した。日常的な連携の希薄であった両機関が本プロジェクトの共同実施を通じて良好な連携関係を築くことができたことは、プロジェクト成果の持続性にも良い影響を与えるものであり、他の類似プロジェクトの実施や形成においても適切な関係部局の関与を検討するとよい。

# 第1章 終了時評価調査の概要

## 1-1 調査団派遣の背景

フィリピン共和国（以下、「フィリピン」と記す）では、近年の経済活動の発展及び国際化の進展に伴う犯罪の多様化、凶悪化に対処するため、フィリピン国家警察（Philippine National Police : PNP）では、科学犯罪捜査の強化を進めてきており、わが国も初動捜査や鑑識分野の技術協力を実施し、PNPの科学的な犯罪捜査能力強化を支援してきた。これら技術協力の成果により、犯罪現場における指紋採取技術が向上し、犯罪者検挙時に採取する指紋カードについても着実に収集・保管されている。しかし、指紋カードと犯罪現場において採取される遺留指紋を目視により確認していたため、指紋照合による被疑者特定は極めて困難な状況であった。

このような状況の下、フィリピン政府（The Government of the Philippines : GoP）は大量に保管されている指紋のデータベース化をめざし、被疑者及び犯罪者指紋と現場遺留指紋とを自動で照合することで、被疑者の特定を迅速かつ効率的に行うことを目的として「指紋自動識別システム整備計画」を策定した。同計画のためのシステム整備については、わが国政府が無償資金協力の要請を受け、2003年度「指紋自動識別システム整備計画」（9億7,500万円）により供与された。

しかし、同システムの有効活用には、指紋電子データ化の際の、オペレーターによる遺留指紋トレース<sup>1</sup>技術、指紋照合時の照合、鑑定技術の向上が必要不可欠であることから、GoPからわが国に「指紋自動識別装置（AFIS<sup>2</sup>）運用強化プロジェクト」が要請され、2006年7月から計4年間の協力が実施された。

同協力により、遺留指紋と押なつ指紋の登録・照会に係る基礎技術が習得され、指紋照会の合致数（ヒット数）も増加した。しかし、犯罪現場からの被疑者押なつ指紋や遺留指紋の送付数が限定的であるため、AFISの機能を十分活用し切れていないという問題があった。そのため、GoPからの要請を受けて、押なつ指紋及び遺留指紋の採取・送付体制を強化することを通して、AFIS活用能力を向上させることを目的として、「指紋採取・活用能力向上プロジェクト（以下、本プロジェクト）」を2010年7月から2013年7月までの3年間に協力期間として実施している。

今般、プロジェクト期間終了まで約半年となることから、これまでのプロジェクト活動の進捗状況、実績、目標の達成見込み等について確認し、プロジェクト活動の実績、成果を評価、確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導くことを目的とし、終了時評価調査を実施した。

## 1-2 調査団派遣の目的

調査団は、第1次及び第2次の2回に分けて派遣することとし、第1次調査団については、以下の（1）及び（2）を、第2次調査団においては（3）及び（4）を実施し、両調査団の実施を経て、（5）の評価調査報告書に取りまとめることとする。

- （1）プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）に基づき、これまでのプロジェクト活動の進捗状況、実績、目標の達成見込みについて調査・確認する。

<sup>1</sup> 遺留指紋のうち不完全な形状の鱗遺留指紋について、指紋の一部から類推し、指紋全体のイメージを作成する作業。

<sup>2</sup> Automated Fingerprint Identification System の略。

(2) 小規模案件(※)であるが、今後の対フィリピン支援の検討の参考とするため、可能な限り DAC 評価 5 項目(妥当性、効率性、有効性、持続性、インパクト)の観点から評価を行い、今後に向けた提言を行うとともに、類似プロジェクトを実施する際の教訓を取りまとめる。(※小規模案件とは 2 億円以下の案件をいい、通常は持続性、インパクトを除く 3 項目で評価を行う。)

(3) (1) 及び (2) の結果に基づき、フィリピン側関係者と協議を行い、残りのプロジェクト期間で行うべき活動及び実施方針について確認する。

(4) 上記の評価及び協議の結果をミニッツ(英文)(Minutes of Meeting : M/M)としてまとめ、カウンターパート(Counterpart : C/P)機関と認識の共有を図る。

(5) 調査結果を終了時評価調査報告書(和文)として取りまとめる。

### 1-3 調査団構成

分野	氏名	所属
総括	子浦 陽一	JICA 産業開発・公共政策部法・司法課課長
警察行政	星野 吉宏	警察庁長官官房国際課課長補佐
評価企画	金田 雅之	JICA 産業開発・公共政策部法・司法課職員
評価分析	板垣 啓子	グローバルリンクマネジメント株式会社 研究員

※警察庁の予算により、警察庁長官官房国際課国際協力室木村公彦室長が同行。

### 1-4 調査日程

#### (1) 第 1 次調査

2013 年 2 月 17 日(日)～3 月 1 日(金)。

- ・子浦団長、星野団員は、2 月 24 日(日)～3 月 1 日(金)(木村室長も同様)。
- ・金田団員は、2 月 20 日(水)～3 月 1 日(金)。

#### (2) 第 2 次調査

2013 年 4 月 1 日(月)～4 月 4 日(木)。

- ・子浦団長、金田団員のみ

詳細は付属資料 1 のとおり。

### 1-5 主要面談者

詳細は付属資料 2 のとおり。



## 第2章 プロジェクトの実績と達成度

### 2-1 投入実績

#### 2-1-1 日本側投入

##### (1) 専門家派遣

下表2-1のとおり、これまでに延べ3名の長期専門家と延べ7名の短期専門家が本プロジェクトに派遣された。

表2-1 専門家派遣実績

No.	専門分野	派遣期間
<長期専門家>		
1	指紋採取・活用指導	2010年8月～至現在
2	業務調整／人材育成	2010年8月～2012年8月
3	啓発活動／人材育成	2012年8月～至現在
<短期専門家>		
1	AFIS 活用	2010年8月30日～9月25日
		2010年9月12～25日
		2011年2月20日～3月26日
		2011年8月7日～9月10日
		2012年2月26日～3月31日
		2012年8月5日～9月15日
		2012年11月18日～12月14日

出典：Progress Report 2（プロジェクト作成資料、2013年2月）

##### (2) 機材供与

プロジェクト活動の実施及び技術移転に必要な研修用視聴覚機材、事務機器等、これまでに総額で50万6,500フィリピン・ペソ（約116万円）<sup>3</sup>相当の機材が供与された。これら供与機材の詳細については、付属資料3.「終了時評価ミニッツ」のAnnex 5に示すとおりである。

##### (3) 本邦及び第三国研修

下表2-2のとおり、これまでにフィリピン側C/P2名が本邦研修に参加した。

<sup>3</sup> 調査時点での為替レート（1フィリピン・ペソ＝約2.29円）に基づく概算値。

表 2-2 C/P 本邦研修実績

担当分野	役職名	人 数	研修コース名	本邦受 入機関	研修期間
上級 AFIS 担当官	警部補	2	指紋鑑定教授法 (J11-21815)	警察庁	2011年6月7日～7月8日

出典：Progress Report 2（プロジェクト作成資料、2013年2月）

(4) 在外事業強化費支出

これまでに総計で 172 万 5,817.70 フィリピン・ペソ（約 395 万円）<sup>4</sup>のローカルコスト負担が行われた。各年度の支出実績は下表 2-3 に示すとおりである。

表 2-3 現地業務費支出実績（フィリピン・ペソ）

年 度（注 <sup>1</sup> ）	2010	2011	2012（注 <sup>2</sup> ）	合 計
現地活動費	11,636.95	12,097.30	1,702,083.45	1,725,817.70

（注 1）日本の会計年度による。

（注 2）2012 年度第 3 四半期末までの実績。

出典：プロジェクト作成資料

2-1-2 フィリピン側投入

(1) C/P の配置

フィリピン側からは、討議議事録（Record of Discussions : R/D）記載に沿って、PNP 幹部に加え、捜査局（Directorate of Investigation and Detective Management : DIDM）、犯罪科学研究所（Crime Laboratory : CL）、モデル方面から延べ 50 名の C/P が配置され、日本人専門家とともにプロジェクトの活動の運営実施にあたっている。これら C/P の一覧は付属資料 3.「終了時評価ミニッツ」の Annex 6 に示すとおりである。

(2) 土地、施設等の提供

フィリピン側よりケソン方面警察本部（Quezon City Police District : QCPD）の施設が提供された。DIDM が所轄する研修センター内に指紋採取・活用指導分野の専門家とプロジェクト秘書の執務室、また CL の指紋鑑定課（Fingerprint Identification Division : FPID）内に啓発活動・人材育成分野の専門家と業務調整スタッフの執務室が設置され、付帯資機材及び電気・水道設備が提供されている。また、PNP 本部内の研修施設がプロジェクトの研修活動に活用されている。

(3) 予算措置

フィリピン側からは、専門家執務室の電気・水道等の料金、PNP 本部外施設での研修活動に係る C/P の旅費等、プロジェクト活動に関連した費用の負担が行われてきた。また、AFIS の維持管理費用として、毎月約 100 万フィリピン・ペソが支出されている。

<sup>4</sup> 調査時点での為替レート（1 フィリピン・ペソ＝約 2.29 円）に基づく概算値。

## 2-2 活動実績

活動実績の詳細は、付属資料3.「終了時評価ミニッツ」Annex 7~8に記載のあるとおり。

## 2-3 プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：指紋採取・送付から鑑定に到る一連の手続にかかる体制を強化することを通じて、AFISの活用が強化される。

指 標：① 指紋採取から鑑定までの一連のフロー及び標準化されたマニュアルが整備される。  
② 指紋照会のヒット数が増加する。

### <実績 (Facts found) >

#### (1) 標準化されたマニュアルについて

- ・本指標でいう標準化されたマニュアルとは、成果1、成果2に関連した、押なつ／遺留指紋の採取・送付及びAFISによる登録、照合、鑑定の手続に関する長官通達 (Letter of Instructions : LOIs) や標準実施手続き (Standard Operating Procedures : SOPs) 等の指示文書である。<sup>5</sup>
- ・これらについては、後掲の表2-9及び下表2-4に記載する各種の指示文書が発出されており、標準化されたマニュアルの整備に向けた進捗が確認できる。今後は、特に遺留指紋の採取、送付及び鑑定に関して、本プロジェクトの成果を踏まえて既存の実務要領やガイドライン等の改訂やLOI等の指示文書の発出等を行っていくことが期待される。

表2-4 各種指示文書の発出状況

発行年月	名 称	備 考
2007年頃	PNP Crime Laboratory Fingerprint Examiners Guide	本プロジェクト開始前 (前フェーズ中)
2008年5月	Scene of Crime Operation (SOCO) Manual	同上
2011年4月	SOP on Conduct of Crime Scene Investigation	
2011年9月	SOP on Booking of Arrested Suspects	
2012年3月	Guidelines in Accepting or Rejecting Accomplished Fingerprint Card	

#### (2) ヒット件数について

- ・ヒット件数は年々増加している (2010年から2012年までの実績については、表2-5

<sup>5</sup> プロジェクト目標の指標の1つとして記載されている“Standardized manual”については、以下の2点から固有名詞としてのPNPマニュアルではなく、手続きに関する指示文書一般を指すと解釈すべきである。

- ① “Standardized”という形容詞によって限定されていることから、当該“manual”は一般名詞として使用されていると解するのが自然である。
- ② 指標の入手手段 (Means of Verification) としてLOIs、SOPsが挙げられており、“Standardized manual”はこれらを含む概念である。
- ③ PNPマニュアルは、各種指示文書の上位に位置づけられ、包括的な手続に関するものであり、科学捜査の一手段である指紋採取に関して作成されるようなものではない。なお、EUの支援により、2010年に包括的な捜査マニュアル (指紋鑑識についての記載も含む) が作成・配布されている。

のとおり)。

- ・上記期間のヒット件数の年間増加率は平均41%であり、今後も増加することが見込まれる。

表2-5 指紋照会のヒット数増加の推移

	2009年 (ベースライン)	2010年	2011年	2012年	合計 (2010~12年)	目標値	達成率
ヒット数	29	48	60	79	187	247	75.9%
増加率(%)	N/A	65.5%	25.0%	31.7%	N/A	N/A	N/A

⇒以上から、プロジェクト目標はプロジェクト期間終了までに達成されることが期待される。

## 2-4 上位目標の達成見込み

上位目標：AFISの活用により犯罪捜査能力が向上する。

指 標：ヒット指紋により被疑者の特定が行われた件数の上昇

### <実績 (Facts found) >

- ・AFISを活用した指紋照会におけるヒットによる被疑者特定件数は、2012年は前年比で微減であったが、プロジェクト開始時点に比べ増加している(表2-6のとおり)。

なお、今次調査において、PNPから、AFISの更なる活用の方途として、全警察職員(約75万人)の指紋を登録することを計画しているとの説明があり、登録指紋数の拡大によるヒット件数の増加とともに、AFIS及び指紋採取の効用についての警察職員の理解の増進に資することが期待される。

表2-6 ヒット指紋による被疑者特定件数

2009年 (ベースライン)	2010年	2011年	2012年	合計 (2010~12年)	目標値	達成率
16	25	39	36	100	136	73.5%

⇒以上から、上位目標はプロジェクト終了後、達成されることが期待される。

## 2-5 各成果の達成度

### 2-5-1 成果1の達成状況

成果1：モデル方面本部等からの被疑者押なつ指紋及び遺留指紋の採取・送付体制が強化される。

指 標：① モデル方面本部等における押なつ／遺留指紋の採取・送付数が増加する。

② モデル方面において押なつ／遺留指紋の採取・送付にかかる手続が定着する。

### <実績 (Facts found) >

以下の(1)及び(2)の活動を実施し、これら活動を通じて、モデル方面である東部方面(Eastern Police District: EPD)に加えて、首都圏全体においても、押なつ指紋(10指指紋)及

び遺留指紋の採取数は着実に増加している（表 2-7 及び 2-8 参照）。

## （1）指紋に関する研修

### 1）捜査員に対する研修

- ・プロジェクトでは、首都圏における合計 144 名の捜査員に対し、指紋採取に関する研修を実施した（全捜査員 583 名のうち 24.7%を占める）。
- ・研修では、座学による講習を修了した捜査員に対し機動鑑識隊（Scene of Crime Operations : SOCO）のメンバーによる犯罪現場におけるオンザジョブ・トレーニング（On-the-Job Training : OJT）（実践活動）を実施。
- ・研修を修了した捜査員に研修終了証とともに指紋採取キット<sup>6</sup>を提供。
- ・本プロジェクト終了後は、これらの研修の成果及び本プロジェクトと連携し実施している指紋鑑識の指導者養成に関する現地国内研修（In-Country Training Program : ICTP）<sup>7</sup>の成果を活用し、フィリピン側が自立的に研修を継続・発展させていくことが期待される。

### 2）チーフ捜査員に対するセミナー

- ・捜査員を監督・統括する立場にある警察署の捜査部局の長 42 名に対し 3 日間の指紋セミナーを実施。

なお、モニタリングの結果によれば、研修を受講した捜査員のうち、現場に臨場して実際に指紋を採取した者は 43%にとどまっており、方面警察本部及び警察署等のユニット単位でも 25%が捜査現場における指紋の採取を行っていない。今後、フィリピン側において研修成果の実践・活用に対する一層の努力が求められる。

## （2）広報活動等

### 1）AFIS 及び指紋の重要性に対する認知度向上

- ・PNP 内での AFIS 及び指紋の重要性を一層認知させるための活動を実施（捜査局ニュースレター、ポスター制作<sup>8</sup>、ソーシャルネットワーク等の活用）。
- ・残りのプロジェクト期間中に DVD の製作も予定されている。

### 2）表彰制度

- ・2012 年 8 月以来、遺留指紋採取成績に基づき、優秀な捜査員を表彰している。
- ・これまでに 47 名の捜査員及び 31 の警察署や地方 CL が表彰されている。

表 2-7 東部方面（EPD）における指紋採取・送付数

指紋採取・送付数 【EPD】	2009 年 (ベースライン)	2010 年	2011 年	2012 年	合計 (2010-12 年)	目標値	達成率
押なつ指紋	733	1,222	3,255	3,389	7,866	7,916	99.4%
遺留指紋	269	184	486	607	1,277	1,641	77.8%

<sup>6</sup> 2 種類の粉末、遺留指紋採取用の棒、拡大レンズ、懐中電灯、筆記用具等から構成される。

<sup>7</sup> 現地国内研修「指紋鑑識実務指導者養成」（2011 年 9 月～2014 年 3 月）。

<sup>8</sup> AFIS の認知度向上と現場保存の重要性に関する啓蒙。

表 2-8 首都圏警察本部（NCRPO）における指紋採取・送付数

指紋採取・送付数 【NCRPO】	2009年 (ベースライン)	2010年	2011年	2012年	合計 (2010-12年)	目標値	達成率
押なつ指紋	6,063	5,712	15,105	14,781	35,598	N/A	N/A
遺留指紋	943	658	1,849	1,974	4,481	N/A	N/A

押なつ／遺留指紋の採取・送付に係る手続に関しては、LOI が表 2-9 のとおり発出されている。

押なつ指紋に関しては、2011年3月に LOI 02/11、同年5月には警察庁長官による特別指示、さらに同年9月には SOP（表 2-4 参照）が発出され、モデル方面のみならず全国における被疑者押なつ指紋の採取・送付の手続きが整備された。

なお、この LOI 等の運用により、首都圏においては、被疑者押なつ指紋の採取・送付がほぼ 100%実施されるようになっている。

遺留指紋に関しても、EPD を含む首都圏警察本部（National Capital Region Police Office : NCRPO）における指紋採取及び送付のための手続きが 2012年3月に LOI 01/12 の発出により整備され、同 LOI に基づく運用が実施されている。

以上から、モデル方面における押なつ／遺留指紋の採取・送付に係る手続は定着しつつあると判断される。

表 2-9 長官通達（LOIs）の発出状況

発出年月	LOIs	概要等
2010年10月	【LOI 02/10】Project on Enhancing Procedure for Collection and Application of Fingerprints at EPD as an model Police District	モデル方面である EPD における指紋採取及び活用に関するもの。本 LOIs を実施に移すための実施計画が同月に発出されている。
2011年3月	【LOI 02/11】Procedure for Collection of Ten Prints of All Booked Suspects at Police Station Nationwide	10 指指紋について全国にて採取する手続に関するもの。
2012年3月	【LOI 01/12】Project on Enhancing Procedure for Collection, Submission and Application of Latent Prints as well as Utilization of AFIS “HITS”/Identical Results in NCRPO	首都圏における遺留指紋の採取・送付・活用及び AFIS におけるヒットの活用に関するもの。

⇒以上から、成果 1 は、おおむね達成できる見込みであると判断される。

## 2-5-2 成果2の達成状況

成果2：CLにおいて送付された押なつ指紋・遺留指紋のAFISによる登録、照合、鑑定体制が強化される。

指 標：① 指紋登録・照合件数が増加する。

② 何人かのAFISオペレーターが指紋鑑定技術向上のために他のオペレーターの指導ができるようになる。

### <実績 (Facts found) >

AFISによる指紋登録及び照合件数は、プロジェクト開始時点と比べて増加している（表2-10）。<sup>9</sup>

また、以下の（1）から（3）の活動を通じて、AFISオペレーター等が育成され、他のオペレーター等の指導が実践されている。

#### （1）AFISオペレーター及び指紋鑑定官に対するセミナー／ワークショップ

- ・延べ224名のAFISオペレーター及び指紋鑑定官が、セミナー／ワークショップに参加。
- ・短期専門家によるAFISオペレーションに関する実地指導を実施。

#### （2）遺留指紋保存のための写真技術指導

- ・セミナー及びOJTを実施。
- ・指導を受けたシニアオフィサーはセブCLにおける写真指導も実施。

なお、白黒写真フィルムの入手が今後困難になることが予想され、中長期的には写真のデジタル化を検討する必要があると考えられる。

#### （3）AFISオペレーション及び指紋鑑定トレーナー養成

- ・指紋の登録、鑑定、トレース、確認に関する指導者となるための研修を実施。
- ・8名のAFISオペレーター及び指紋鑑定官が、トレーナーとして、合計26の所内研修において、101名のAFISオペレーターを含む延べ509名のCL技術スタッフに指導を実施。

研修を受講したAFISオペレーターは、捜査局の研修部にて実施する定期研修における講師として指導を行っており、継続的な実践を通じた指導技術の向上が期待される。

<sup>9</sup> 遺留指紋の照合件数については、プロジェクト開始後、年々減少し、2012年度はプロジェクト開始前の2009年度実績を下回っているが、採取・送付された指紋の質が悪かったり、登録するAFISオペレーターの技能レベルが低かったりする場合には、1つの指紋に関し複数回の照合を行う必要があり、入手した実績データには、このような重複した照会の件数を含んでいるため、本実績データの照合件数の減少には、採取・送付された指紋の質の向上、AFISオペレーターの技能の向上による重複照会の減少の影響があると考えられる。

表 2-10 AFIS による指紋登録及び照合数

		2009 年 (ベースライン)	2010 年	2011 年	2012 年	合 計 (2010-12 年)	目標値	達成率
押なつ指紋	登録数	11,794	18,282	38,620	37,428	94,330	114,992	82.0%
	照合数	14,045	20,113	41,964	41,598	103,675	136,939	75.7%
遺留指紋	登録数	1,041	1,594	2,288	2,466	6,348	9,095	69.8%
	照合数	3,818	7,391	4,695	3,230	15,316	9095	168.4%

⇒以上から、成果 2 はおおむね達成できる見込みであると判断される。

## 2-6 実施プロセスの評価

### (1) 意思決定とモニタリングのメカニズム

プロジェクトの意思決定機関であり、活動進捗の確認を行うとともに、プロジェクト運営に係る連絡調整を担う組織として設置されたプロジェクト管理委員会 (Project Management Committee : PMC) は月例で開催されることとなっていたが、頻繁な人事異動、特に PNP 本部の管理部局の人事異動等の問題から、これまでの開催は 3 回にとどまっている。プロジェクトでは、これに代わるものとして、内部計画検討ワークショップ (Project Internal Review and Planning Workshop)、プロジェクト実施レビュー (Project Implementation Review : PIR)、テクニカル・ワーキング・グループ (Technical Working Group : TWG) 等、種々の会合を開催し、プロジェクトの活動進捗及び成果達成状況に係る情報の共有、活動計画内容の確認・承認を行ってきた。これらの会合の開催実績の詳細については、付属資料 3.「終了時評価ミニッツ」の Annex 8 に示すとおりである。

### (2) プロジェクト関係者間の連絡調整

今般調査のインタビューにおいては、プロジェクト関係者間に円滑な連絡調整・コミュニケーションが構築されていたことが報告された。定期的な全体会合の開催は困難であったが、PNP 本部の各関係部局担当者、モデル方面及び NCRPO の関係者の間には、携帯電話等による頻繁な連絡が確保されており、プロジェクトの活動に関しては、PNP 本部からの正式通達に加え、専門家やプロジェクトのスタッフから、携帯電話、携帯メール (Short Message Service : SMS) を通じて必ず事前の連絡がなされたことが評価されている。また、啓発活動の一部として DIDM 及び CL の定期刊行物にプロジェクト活動報告が寄稿されたことも、関係者間の情報共有に貢献した。



## 第3章 プロジェクトの5項目評価結果

### 3-1 妥当性

⇒プロジェクトは、以下の理由により、おおむね妥当であると判断される。

#### (1) フィリピン政府（GoP）の政策との整合性

- ・ 現行のフィリピン開発計画（PDP：2011～2016）にてグッドガバナンスと法の支配の確立が主要な課題のひとつに位置づけられており、その中で、フィリピン国家警察（PNP）の近代化（科学捜査を含む）が明記されている。
- ・ PNP の “Peace and Order Agenda for the Transformation and Upholding of the Rule of Law（PATROL） Plan 2030” の中でも、科学技術を用いた犯罪捜査の促進の重要性が言及されている。
- ・ PNP の戦略文書である “CODE-P 2013 and Beyond” の中で、AFIS も含めた情報通信技術（ICT）の犯罪捜査における活用方針が明記されている。

#### (2) 日本政府（GoJ）の援助政策との整合性

- ・ プロジェクトを開始した時点においては、フィリピン国別援助計画（2008.6）及び JICA 国別援助実施方針（2009年7月）において、本案件を含む警察能力向上は、重点課題「雇用機会の創出に向けた持続的な経済成長」の中の「グッドガバナンス」プログラムの下に位置づけられていた。
- ・ 最新の日本政府（The Government of Japan：GoJ）の対フィリピン国別援助方針（2012年4月）においては、選択と集中の過程で、ガバナンスプログラムは廃止されたことから、本案件は「脆弱なガバナンスの下、投資促進の阻害要因となっている治安問題の改善のため、警察能力向上に係る実施中の案件については着実に遂行するとされている」として投資環境プログラムに位置づけられている。
- ・ よって、現在実施中の本プロジェクトについては、一定の妥当性を有しているものの、対フィリピン援助政策全体におけるセクターの重要性は低下している。

#### (3) ターゲットグループのニーズ

- ・ PNP の関連部局や C/P 等からは、プロジェクトの支援による技術面での向上に対し、一様に高い評価が寄せられた。
- ・ プロジェクトの支援により、AFIS の登録指紋データベースは充実し、ヒット件数の増加により AFIS にかかわる警察官の一層の意欲の向上につながっていることが確認された。

#### (4) プロジェクトアプローチとしての適切さ

- ・ 2003年に実施した無償資金協力による AFIS の供与及び前フェーズにおける技術協力の成果を更に発展、拡大させることをめざしたアプローチは妥当であると考えられる。

#### (5) 日本の技術の優位性

- ・ 日本では 1982年に AFIS を導入し、犯罪者指紋カード及び現場遺留指紋をデータベース

化し、1990年にはそれらの照合作業もコンピュータによって行われ、迅速な捜査活動を可能にしているため、本分野における日本の技術優位性はある。

### 3-2 有効性

⇒プロジェクトの有効性は、以下の理由により、高いと判断される。

#### (1) プロジェクト目標の達成

- ・モデル地域である EPD に加えて NCRPO においても 10 指指紋・遺留指紋の採取・送付数は増加し、また、AFIS による指紋登録、指紋照合数も増加しており、継続的な取り組みがなされることにより、プロジェクト目標は、プロジェクト期間内に達成されることが見込まれる。

#### (2) 成果とプロジェクト目標達成との関連性

- ・モデル地域における指紋採取・送付体制が強化される（成果1）こと、及び本部 CL において受領した指紋の AFIS による登録、照合、鑑定体制が強化される（成果2）ことは、一連の手続きの上流部分と下流部分であり、双方の成果の達成が、AFIS の活用が強化されるというプロジェクト目標の達成に貢献することにつながっている。よって、成果とプロジェクト目標とは適切な関連を有している。

#### (3) プロジェクト目標達成に資する促進要因

- ・首都圏警察本部では、捜査をチームによって実施する取り組みを導入しており、このイニシアティブが、プロジェクトにて研修を行った捜査員が犯罪現場における指紋採取に集中して取り組むことを可能にするとともに、研修未受講の捜査員への波及効果をもたらした。
- ・プロジェクトによる犯罪現場における指紋採取の成績優秀な捜査員及び警察署の表彰制度を導入したことも士気を高めるとともに、警察署間での良い意味での競争意識も醸成し、監督者によるモニタリングを改善させることに貢献した。

#### (4) プロジェクト目標達成に対する阻害要因

- ・少なからぬ捜査局及び CL における C/P が、PNP の頻繁な人事異動による影響を受けた。特に DIDM のマネジメントオフィサーが 2012 年に異動により長期間空席となったことなどは、プロジェクトに関連する指示の発出の遅れ等につながった。

#### (5) 外部条件

- ・研修を受けた捜査員が（指紋を採取する）捜査とは無関係の部署に配置されたことは、習得した技術の活用や犯罪現場における指紋採取経験の蓄積に対し悪影響を及ぼした。（現在では、この問題点は認識され、既に将来に向けた改善策が取られている。）

### 3-3 効率性

⇒プロジェクトの効率性は、以下の理由により、高いと判断される。

(1) 日本側投入

- ・専門的知識・技術を有する専門家が計画に基づいて派遣され、C/P から高く評価された。
- ・プロジェクト活動及び技術移転に必要な資機材についても提供され、適切に管理され、各種活動に活用されていることが確認された。
- ・本邦研修参加者も習得した知識・技術をプロジェクト活動及び日常の活動に活用している。

(2) フィリピン側投入

- ・C/P は任命され、プロジェクトオフィスや基本設備は提供され、円滑なプロジェクト活動の実施に貢献した。

(3) 他の JICA 支援との連携

- ・プロジェクトは、ICTP (「指紋鑑識実務指導者養成」) や鑑識・初動捜査等の関連分野の個別専門家と密接に連携して実施された。ICTP は AFIS オペレーターや鑑識官のトレーナーとしての一層の能力強化に貢献し、プロジェクト成果を全国に広げることに役立ち、個別専門家はより一層の専門知識の教授によりシナジー効果をもたらした。

### 3-4 インパクト

⇒上位目標の達成及び波及効果の発現のための一定のポジティブな要素は確認された一方、AFIS の活用により被疑者が逮捕・起訴され完全な解決につなげるためにも、PNP 内のみならず、司法分野における取り組みも不可欠である。

(1) 上位目標の達成見込み

- ・現在のヒット指紋による被疑者特定数は、プロジェクト終了時点での目標設定値に対して約 74%となっており、今後の一層の取り組みにより、将来の上位目標の達成は期待される。

(2) ポジティブなインパクト

- ・聞き取り調査の結果から、プロジェクト実施(捜査員が SOCO との OJT を経て、犯罪現場で指紋採取を行うこと)により DIDM と CL の連携が強化されたことが確認された。
- ・多くの関係者は AFIS におけるヒットは最終目標ではなく、立件、被疑者逮捕を経て、最終的には法廷での結審に至ることをめざすべきことを認識している。

(3) ネガティブなインパクト

- ・特になし。

### 3-5 持続性

⇒プロジェクトの持続性は、以下の理由により、中程度と判断される。

#### (1) 政策・制度面での持続性

- ・ PATROLE Plan 2030 や CODE-P 等の PNP の政策文書において、犯罪捜査において AFIS を含む情報技術を活用したシステムの導入を重視することが明記されており、政策面での継続的な支援が期待できる。
- ・ 捜査活動における AFIS の活用を促進する LOIs 等も発出されており、制度面での持続性も一定程度確保されている。

#### (2) 財政・組織面での持続性

- ・ スペアパーツの確保も含め、PNP が AFIS のメンテナンスについて継続的に努力を行っていることが確認された。AFIS の更新に関しても多額の予算の確保がなされており、オーナーシップの表れと受け取ることができる。
- ・ 組織面においては、研修受講者の人事配置や指導的立場にあるオフィサーの頻繁な人事異動等の懸念はあり、今後もモニターしていくことが必要である。

#### (3) 技術面における持続性

- ・ 指紋を採取する捜査官及び、指紋を処理・登録する AFIS オペレーターや鑑識官の技術レベルは向上しており、今後、着実な実践経験の積み重ねを通じた一層の習熟が期待される。
- ・ AFIS の更新に向けた予算措置、更新手続の着実な進展、及び今後の競争入札実施までの手続<sup>10</sup>が確認された。一連の手続を経て、最終的にこれまでのシステムと整合性のある形で更新がなされることが、プロジェクトの技術面での持続性確保のための前提となる。
- ・ 現在、白黒写真撮影により行われている遺留指紋保存に関し、将来的には白黒フィルムの入手が困難となる可能性があることから、デジタル化等の方策を模索することが持続性確保の観点からは必要と考えられる。

### 3-6 結 論

上述のとおり、プロジェクト目標はプロジェクト期間中におおむね達成される見込みであり、プロジェクトは予定どおり 2013 年 7 月に終了する。

プロジェクト終了後は、フィリピン側が、指紋鑑識の指導者養成に関する ICTP や現在派遣中の鑑識・初動捜査の個別専門家による関連分野の支援も活用しつつ、以下の提言も踏まえて AFIS の更なる活用に向けた取り組みを実施することを期待する。

---

<sup>10</sup> 今後、過年度予算充当の合法性が政府調達政策委員会（Government Procurement Policy Board : GPPB）にて確認され、調達委員会による審議を経て、2013 年度の年次調達計画の修正がなされれば、実際の競争入札の手続が開始されることになる。

## 第4章 まとめ

### 4-1 今後に向けての提言

#### 4-1-1 プロジェクト期間中における活動に関する提言

##### (1) 現場捜査官による遺留指紋採取・送付の促進

AFISの一層の活用強化のためにも、遺留指紋の採取・送付数を増加させるための取り組みを一層強化していくことが必要である。

#### 4-1-2 プロジェクト期間終了後も含めた対応に関する提言

##### (1) AFISの更新

本プロジェクトの成果がプロジェクト期間終了後も持続・発展するためには、AFISの更新のために必要な措置が、GoP内において滞りなく行われる必要がある。

##### (2) 指示文書の発出等

本プロジェクトの成果を定着させていくために、本プロジェクトの成果を踏まえて遺留指紋の採取、送付及び鑑定に関する既存の実務要領やガイドライン等の改訂やLOI等の指示文書の発出を行っていく必要がある。

##### (3) 実績モニタリング

指紋採取・送付・登録に関する体制整備のためにも、実績モニタリングを充実させて、常に改善を図っていく必要がある。

##### (4) 遺留指紋登録のデジタル化

現在使用している白黒フィルムは、将来的には入手が困難となる可能性があるため、持続性確保の観点からも、証拠能力を維持した形での改ざん防止措置を含むデジタル化に向けた方策につき、検討・採用する必要がある。

### 4-2 類似案件実施への教訓

#### (1) 適切な関係部局の関与

プロジェクト目標を達成するために、本プロジェクトでは、CLのみではなく、DIDMもC/Pに加えてプロジェクトを実施した。日常的な連携の希薄であった両機関が本プロジェクトの共同実施を通じて良好な連携関係を築くことができたことは、プロジェクト成果の持続性にも良い影響を与えるものであり、他の類似プロジェクトの実施や形成においても適切な関係部局の関与を検討することが望ましい。

### 4-3 調査団長所感

#### (1) AFISの一層の活用のための登録件数の増加に向けて

AFISを一層活用し、ヒット及び被疑者検挙につなげていくためには、照会元である現場遺留指紋の採取件数を増やすこととともに、照会先である登録指紋数を増やすことが重要であるが、今次調査において、PNPとして全警察官の10指指紋を採取・登録することを計画

していることが確認された。この取り組みは、登録指紋数の増加とともに、PNP 内部への指紋の重要性及び AFIS の有用性の周知にもつながることが期待され、本プロジェクト成果の持続性向上にとっても有益であると考ええる。

## (2) AFIS 更新に向けた取り組み

AFIS の更新はプロジェクト成果の持続性にも深く関係するため、今次調査では装備局からの聞き取りを行い、AFIS 更新に向けた状況を確認した。その結果、PNP の設備投資予算として毎年 20 億ペソが確保されているが、AFIS 更新については、2009～2010 年度の調達年度計画に計上されていた銃器調達のための予算の未使用分（3 億 6,000 万ペソ）のうち 2 億 7,000 万ペソを充当する形で確保されており、現行 AFIS の更新手続きが着実に進められていること、またシステム更新の際、これまでの協力により蓄積されたデータが適切に新システムに移行されることを担保する仕様となっていることが確認された。

## (3) PNP 犯罪対策能力向上プログラム

残りのプロジェクト期間においては、PNP が自立的に本プロジェクト成果を維持・発展させていけるよう、フィリピン側へのハンドオーバーをより一層念頭に活動を進めていく必要がある。また、本プロジェクト終了後も一定期間 PNP 犯罪対策能力向上プログラムにおける他の協力（個別専門家、本邦研修、ICTP）は継続するため、同様にフィリピン側の自助努力を促す形での取り組みを促進することが必要である。

## 付 属 資 料

1. 調査日程
2. 主要面談者リスト
3. 終了時評価ミニッツ（含む PDM）
4. 主要面談記録
5. PNP CL による総括プレゼンテーション資料

1. 調査日報

フィリピン終了時評価調査スケジュール (実績版)

日	警察行政	総括	評価企画	評価分析		備考
	警察庁 (星野補佐)	JICA (子浦課長)	JICA (金田)	コンサルタント (坂理氏)		
2012/2/17				13:35 マニラ着 (JL741)		
2012/2/18				9:00-10:00 飯利プログラムマネージャーからのヒアリング @JICA MR2 10:00-11:30 対処方針会議 @JICA Auditorium 13:00-13:30 本部DIDM (捜査局) 局長表敬 13:30-14:00 本部DIDM RAD-CMDヒアリング 15:00-16:00 本部DIDM SIDDヒアリング 16:00-17:00 大川専門家からのヒアリング 17:00-18:00 竹内専門家からのヒアリング		<ul style="list-style-type: none"> <li>■C/Pヒアリングについては、プロジェクト専門家の同席を想定。</li> <li>□DIDM : Directorate for Investigation &amp; Detective Management</li> <li>□RAD : Research and Analysis Division</li> <li>□CMD : Case Monitoring Division</li> <li>□SIDD : School for Investigation and Detective Development</li> </ul>
2012/2/19				9:00-10:00 小山短期専門家からのヒアリング 10:00-11:00 鷲尾専門家からのヒアリング 11:00-12:00 大野専門家からのヒアリング 13:00-13:30 CL所長表敬 13:30-14:00 CLアラナス 警視正からのヒアリング 14:00-17:00 本部CL (指紋鑑定課・AFIS係) からのヒアリング		<ul style="list-style-type: none"> <li>■C/Pヒアリングについては、プロジェクト専門家の同席を想定。</li> <li>□CL : Crime Laboratory Service</li> </ul>
2012/2/20				9:00-9:30 首都圏警察局本部長表敬 9:30-10:30 首都圏警察局本部ヒアリング 10:30-11:30 東部方面本部及び主要警察署からのヒアリング 13:30-14:30 草野園子の他方面本部 主要警察署からのヒアリング 15:30-16:30 CL総務課長からのヒアリング 17:30-19:00 団内打合せ @JICA MR3		<ul style="list-style-type: none"> <li>■C/Pヒアリングについては、プロジェクト専門家の同席を想定。</li> <li>■首都圏警察局本部 (1~2名)、方面本部および主要警察署から5名前後 (EPD中心) を想定。</li> <li>■時間もきめ、仮設定</li> </ul>
2012/2/21				9:00-10:00 事務所ナショナルスタッフからのヒアリング【コンサルタント】 9:30-10:00 事務所 (益田次長) との打合せ【金田】 11:00-12:00 プロジェクト専門家との打合せ 13:30-15:30 全5方面CLからのヒアリング		<ul style="list-style-type: none"> <li>■専門家との打合せは必要に応じて実施。</li> <li>■C/Pヒアリングについては、プロジェクト専門家の同席を想定。</li> <li>■PMP本部CLに集まっていたとき、ヒアリングを実施予定。</li> </ul>
2012/2/22				9:00-10:00 AFIS視察 10:30-12:00 東部方面マリキナ警察署視察・捜査員からのヒアリング 13:00-14:45 飯利プロマネからのヒアリング【金田】 15:30-17:00 東部方面ハンガリー警察署視察・捜査員からのヒアリング		<ul style="list-style-type: none"> <li>■仮設定 (時間が許せば、必要に応じて実施)</li> </ul>
2012/2/23				資料整理		
2012/2/24				13:35 マニラ着 (JL741) 資料整理		
2012/2/25				15:30-17:30 団内打合せ 9:00-12:00 専門家・事務所との協議 14:00-15:30 DIDMからのヒアリング 17:00-18:00 事務所長との打合せ【团长・金田】		<ul style="list-style-type: none"> <li>■DIDMは、実際の事件事例を用いたプレゼンテーションを準備。Corpus副捜査局長、Macavinta事件モニタリング (CMD) 部長、Marquez捜査研修 (SIDD) 部長、Babagay研究分析 (RAD) 部長ほかが同席。</li> </ul>
2012/2/26				9:00-10:30 本部CL所長表敬・本部CLからのヒアリング 10:45-11:15 PNP警察庁長官表敬 13:30-14:30 首都圏警察本部長表敬 14:30-16:00 首都圏警察本部および主要警察署からのヒアリング		<ul style="list-style-type: none"> <li>■本部CLは、Aranas CL総務課長、Garado指紋鑑定課長、Tebia AFIS係長ほかが同席。</li> <li>■方面本部及び主要警察署については、20日のヒアリング同様、Laxa警備庁、Filarthi刑事課長、Acabo課長補佐、Guibb巡査長 (AFISデスク担当) が同席。</li> </ul>
2012/2/27				9:00-10:30 IBIS視察 10:30-12:00 AFIS視察 13:30 マニラ方面サンパロック警察署視察・捜査員からのヒアリング 15:30-17:00 マニラ方面本部CLからのヒアリング		
2012/2/28				9:00-10:15 PNP調達部 (Dept. of Logistics) からのヒアリング 10:30-11:00 飯利プロマネとの打合せ 11:00-12:00 EPJUSTとの面談 15:00-17:00 ADBとの面談【团长・コンサルタント・金田】 17:30-18:30 事務所報告【团长・金田】		<ul style="list-style-type: none"> <li>■事務所報告については、JICA団員のみの対応。</li> </ul>
2012/3/1				AM 資料整理 14:50 マニラ発 (JL742)		

※警察庁予定、木村課長が2/24~3/1の全日程同行予定。



フィリピン終了時評価調査（第二次）スケジュール実績

		内容	備考
2012/4/1	月	13:35 マニラ着 (JL741) 16:00 事務所打合せ	事務所との打合せにおいて、アボ及び調査期間中の進め方について確認。 事務所側は佐々木所長及び氏家さんが対応。
2012/4/2	火	10:30 ミニッツ協議	フィリピン側は、捜査局 (DIDM) 及び犯罪科学研究所 (CL) の主要関係者が出席。日本側は、専門家及び事務所の氏家さんが出席。
2012/4/3	水	8:30 ミニッツ署名 9:30 CLとの打ち合わせ 11:00 専門家との打ち合わせ 17:30 事務所報告	CL (Aranas氏) からは現地国内研修への専門家の支援に関する依頼等がなされた。
2012/4/4	木	10:00 大使館報告 14:50 マニラ発 (JL742)	

## 2. 主要面談者リスト

### (1) フィリピン国家警察

Mr. Alan LM Purisima	長官
Mr. Felipe L. Rojas Jr.	参謀長
Mr. Jose Jorge E. Corpus	捜査局次長
Ms. Liza M. Savon	犯罪科学研究所長
Mr. Arnulfo R. Perez	調達局長
Mr. Mario N Rariza Jr	首都圏警察本部長

### (2) EU (EPJUST II)

Ms. Irinel Cocos	Criminal Justice/Police Expert
------------------	--------------------------------

### (3) ADB

Ms. Evelyn Toledo-Dumdum	Justice Sector Coordination Specialist, Public Management, Financial Sector and Trade Division, Southeast Asia Department
Ms. Carolyn A. Mercado	Consultant (The Asia Foundation)

### (4) 専門家

飯利 雄彦	プログラムマネージャー/長官アドバイザー
大川 政浩	プロジェクト専門家 (指紋採取・活用指導)
竹内 宏之	プロジェクト専門家 (啓発活動/人材育成)
大野 裕	個別専門家 (捜査能力向上)
鷲見 和久	個別専門家 (警察科学捜査 (鑑識))

### (5) 在マニラ日本大使館

鶴代 隆造	1等書記官 (領事担当)
山川 寛詞	2等書記官 (経済協力担当)

### (6) JICA フィリピン事務所

佐々木 隆宏	所長
益田 信一	次長
氏家 陽子	担当
Ms. Martha P. Parrenas	ナショナルスタッフ (プロジェクト担当)
Ms. Mary Ann G. Bakisan	ナショナルスタッフ (現地国内研修担当)

**MINUTES OF MEETINGS  
BETWEEN  
THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM  
AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED  
OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES  
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE PROJECT TO ENHANCE THE OPERATION  
OF AUTOMATED FINGERPRINT IDENTIFICATION SYSTEM (AFIS)**


The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), headed by Mr. Yoichi SHIO, Director, Law and Justice Division, Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department, JICA, visited the Philippines from 17<sup>th</sup> February to 1<sup>st</sup> March and 1<sup>st</sup> to 4<sup>th</sup> April 2013, for the purpose of conducting the terminal evaluation on the achievement of the Japanese technical cooperation for “the Project to enhance the operation of automated fingerprint identification system (AFIS)” (hereinafter referred to as “the Project”) on the basis of the Record of Discussions signed on July 13<sup>th</sup>, 2010 (hereinafter referred to as “R/D”) and the Minutes of Meetings signed on 20 April, 2010 (hereinafter referred to as “M/M”).

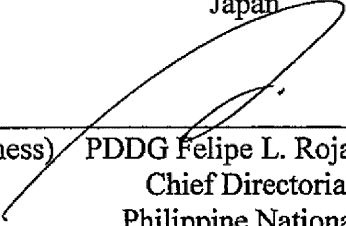
During its stay in the Philippines, the Team and the Philippine authorities concerned (hereinafter referred to as “the Philippine side”) had a series of discussions on the matters pertaining to the successful implementation of the Project and the sustainable development of the outcome of the project.


As a result of the study and discussions, both sides agreed upon to forward to their respective governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Quezon City, April 3<sup>rd</sup>, 2013

  
\_\_\_\_\_  
Mr. Yoichi Shio  
Leader  
Japanese Terminal Evaluation Team  
Japan International Cooperation Agency  
Japan

  
\_\_\_\_\_  
PCSUPT Jose Jorge E. Corpuz, CEO VI  
Deputy Director  
Directorate for Investigation and Detective  
Management, Philippine National Police,  
Republic of the Philippines

  
\_\_\_\_\_  
(Witness) PDDG Felipe L. Rojas, Jr., CEO VI  
Chief Directorial Staff  
Philippine National Police  
Republic of the Philippines

  
\_\_\_\_\_  
PCSUPT Liza M. Sabong  
Director  
Crime Laboratory Group  
Philippine National Police  
Republic of the Philippines

## THE ATTACHED DOCUMENT: THE EVALUATION REPORT

### TABLE OF CONTENTS

#### **1. Outline of the Terminal Evaluation**

- 1-1 Background
- 1-2 Objectives of the Terminal Evaluation
- 1-3 Outline of the Project
- 1-4 Members of the Terminal Evaluation Team
- 1-5 Schedule of the Terminal Evaluation
- 1-6 Methodology of the Terminal Evaluation
- 1-7 Limitations and Constraints of the Study

#### **2. Achievements, Prospect and Implementation Processes**

- 2-1 Inputs
- 2-2 Achievement of the Outputs
- 2-3 Achievement of the Project Purpose
- 2-4 Prospect of the Overall Goal
- 2-5 Implementation Processes of the Project

#### **3. Results of the Evaluation based on Five Criteria**

- 3-1 Relevance
- 3-2 Effectiveness
- 3-3 Efficiency
- 3-4 Impacts
- 3-5 Sustainability

#### **4. Conclusion**

#### **5. Recommendations**

- 5-1 Recommendation for Remaining Period of the Project
- 5-2 Recommendation for Future

### LIST OF TABLES

- Table 1-1: Summary of the Project
- Table 2-1: List of Japanese Experts
- Table 2-2: Details of the training of counterpart personnel in Japan
- Table 2-3: Local Expenses borne by the Japanese Side (Philippine Pesos)
- Table 2-4: Increase of the number of ten prints and latent prints in the Model Police District
- Table 2-5: Increase of the number of ten prints and latent prints in the NCR
- Table 2-6: The number of registration and inquiries of ten prints and latent prints
- Table 2-7: Increase of the number of "Hit" of fingerprint inquiry
- Table 2-8: Increase of the number of suspects identified through fingerprint identification

### ANNEXES:

- Annex 1: Project Design Matrix (PDM) (Version 2)
- Annex 2: Schedule of the Terminal Evaluation
- Annex 3: Evaluation Grid
- Annex 4: Plan of Operations (PO)
- Annex 5: List of Machinery and Equipment
- Annex 6: List of Counterpart Personnel

Annex 7: Record of Seminars/Workshops at FPID, CL-HO  
 Annex 8: List of the Meetings related to the Project Management

### Abbreviations

AFIS	Automated Fingerprint Identification System
CL	Crime Laboratory
CLO	Crime Laboratory Office
DIDM	Directorate of Investigation and Detective Management
EPD	Eastern Police District
GoJ	The Government of Japan
GoP	The Government of the Philippines
HQ	Headquarters
ICTP	In-Country Training Program
JICA	Japan International Cooperation Agency
LOI	Letter of Instructions
MPD	Manila Police District
NAPOLCOM	National Police Commission
NBI	National Bureau of Investigation
NCR	National Capital Region
NCRPO	National Capital Region Police Office
NPD	Northern Police District
OJT	On-the-Job Training
PCP	Police Community Precincts
PDM	Project Design Matrix
PIR	Project Implementation Review
PMC	Project Management Committee
PNP	Philippine National Police
PO	Plan of Operations
QCPD	Quezon City Police District
R/D	Record of Discussions
SOCO	Scene of Crime Operations
SOP	Standard Operating Procedures
SPD	Southern Police District
TCP	Technical Cooperation Project
TOT	Training of Trainers
TWG	Technical Working Group

## **1. Outline of the Terminal Evaluation**

### **1-1 Background**

There has been a long history of cooperation between the Government of the Philippines (GoP) and the Government of Japan (GoJ) on the improvement of the capability in scientific investigation of the Philippine National Police (hereinafter referred to as the "PNP"). Since the 1980s, Japanese experts on relevant fields of expertise such as forensic science and crime scene investigation have been dispatched to PNP through JICA's Individual Expert Dispatch Program. However, identification of suspects with the fingerprints collected at the crime scenes was manually done, and the evidences were not usually utilized in court proceedings due to the delayed outputs. Under this circumstance, the GoP requested GoJ's assistance to optimize the use of fingerprint identification equipment that would enable quick and efficient identification of suspects, in response to which, the GoJ provided PNP an automated fingerprint identification system (AFIS) equipment under the Japan's General Grant Aid program in 2003.

With introduction of the AFIS equipment, it has also become necessary to develop the operators' skills in tracing, examination and verification of fingerprints at the time of encoding in order to realize effective operation of the AFIS; Hence the GoP requested technical assistance from GoJ. In response, the GoJ assisted the PNP in implementing the Project on "Building up the Operation of Automated Fingerprint Identification System (AFIS)" under JICA's Technical Cooperation Program (TCP) from 2006 to 2010. The Project enabled AFIS operators to acquire basic skills in registration and inquiry of ten-prints and latent-prints that resulted in the increase of the number of "hits".

In the last half of the project, however, it was found out that the AFIS equipment was not fully utilized due to limited number of ten-prints and latent prints collected from the crime scenes. The GoP then requested the GoJ for another technical assistance to enhance the AFIS utilization by strengthening the comprehensive system of collecting, submitting and verifying tenprints and latent prints, based on which the GoJ decided to support the PNP in implementing the "Project on Enhancing the Capacity for Collection and Application of Fingerprints" (hereinafter referred to as "the Project"), known as AFIS 2 Project, from July 2010 to July 2013.

### **1-2 Objectives of the Terminal Evaluation**

This Terminal evaluation study (hereinafter referred to as "the Study") on the Project is conducted to:

- (1) Review the achievements and implementation processes of the Project according to the Project Design Matrix (hereinafter referred to as the "PDM") and the Plan of Operations (hereinafter referred to as "PO"),

- (2) Evaluate the Project according to the Five Evaluation Criteria,
- (3) Draw recommendations on measures to be taken to achieve the Project purpose and overall goal, and identify lessons learnt from the Projects, and
- (4) Prepare and submit a Joint Terminal Evaluation Report on the evaluation results for discussion by the concerned authorities of the Philippines.

### 1-3 Members of the Terminal Evaluation Team

The Study was conducted by the Terminal Evaluation Study Team (hereinafter referred to as “the Team”), composed of the following team members:

1. Mr. Yoichi SHIO	Team Leader	Director, Law and Justice Division, Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department, JICA	24 Feb-1 Mar, 1 Apr-4 Apr
2. Mr. Yoshihiro HOSHINO	Police Administration	Assistant Director, International Affairs Division, National Police Agency	24 Feb-1 Mar
3. Mr. Masayuki KANEDA	Cooperation Planning	Assistant Director, Law and Justice Division, Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department, JICA	20 Feb-1 Mar, 1 Apr-4 Apr
4. Ms. Keiko ITAGAKI	Evaluation Analysis	Researcher, Global Link Management, Inc.	17 Feb-1 Mar

### 1-4 Outline of the Project

#### (1) Summary of the Project

The grand design of the Project is drawn in the PDM Version 2 dated on February 2, 2012, which is attached as Annex 1, the summary of which is as follows.

Table 1-1: Summary of the Project

Overall Goal	PNP’s capability on criminal investigation is enhanced through utilization of Automated Fingerprint Identification System (AFIS)
Project Purpose	PNP’s capacity on AFIS utilization is enhanced through strengthening the comprehensive system of collecting, submitting and verifying ten prints and latent prints
Outputs	1. The system of collecting and delivering ten prints and latent prints from police stations and Crime Laboratory (CL) in the model Police District to CL-Headquarters (HQ) is enhanced 2. The skills in latent to ten print inquiry and tracing other crimes of identified suspects are upgraded
Activities	1-1 Assign the Model Police District on collecting and delivering ten prints and latent prints

	<p>1-2 Establish a mandate, procedure and regulatory measures in collecting and delivering ten and latent print information from police stations and CL in the Model Police District Office to CL-HQ</p> <p>1-3 Provide technical and logistical support to police stations and CL in the Model Police District in collecting and delivering tenprints of suspects and latent prints at crime scenes</p> <p>1-4 Conduct seminars and OJTs on fingerprint photography for records of latent print images at crime scenes in the jurisdiction of the Model Police District</p> <p>1-5 Monitor the progress of collection and delivery of fingerprint information from police stations and CL in the Model Police District to CL-HQ</p> <p>1-6 Summarize the results and lessons of activities of the Model Police District and formulate the action plan to disseminate the operation to nation-wide</p> <p>2-1 Conduct advanced seminars and OJTs on fingerprint encoding, latent to tenprint inquiry and tracing other crimes by the identified suspect</p> <p>2-2 Plan and implement internal skill development programs for current and newly recruited AFIS operators in the CL</p> <p>2-3 Conduct advanced seminars and OJTs on fingerprint photography for preservation of latent print images sent from the police stations and CL in Model Police District to NHQCLO</p> <p>2-4 Update statistics of fingerprint processed by AFIS on the daily, weekly and monthly bases and report them to the relevant sections</p> <p>2-5 Modify the concerned procedures for upgrading the efficiency of fingerprint identification and feedback</p>
--	--

(2) Duration of the Project: Three (3) years from June 2010 to July 2013

(3) Implementing Agency of the Project: Philippine National Police (PNP)

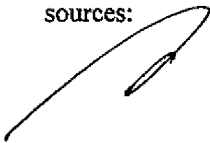
(4) Target Group: Directorate for Investigation and Detective Management (DIDM), Crime Laboratory and Police Investigators

**1-5 Schedule of the Terminal Evaluation**

The period of the Terminal Evaluation is from 18 February to 1 March, and 1 to 4 April, 2013. The detailed schedule of activities is attached as Annex 2.

**1-6 Methodology of the Terminal Evaluation**

The Project was jointly evaluated by the Philippine and Japanese parties in accordance with the Record of Discussions (R/D). At first, an evaluation grid was prepared as shown in Annex 3, as a framework to collect and sort out relevant data and information as prescribed in the "JICA New Guideline for Project Evaluation (June 2010)". During the Study, the Team at first confirmed the progress and achievements of the Project in terms of its purpose, outputs, activities and inputs stated in the PDM and PO i.e. attached as Annex 4, using the information derived from the following sources:






- 1) Project planning documents such as R/D, PDM and PO
- 2) Project documents on the progress and achievements of the Project
- 3) Interviews and discussions with the Japanese experts
- 4) Interviews and discussions with the counterpart personnel and beneficiary officers
- 5) Record of inputs and their utilization

The findings were then analyzed based on the five evaluation criteria, the descriptions of which are given below.

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 1) Relevance      | Relevance is to question whether the project purpose and overall goal are still in line with the priority needs and concerns at the time of evaluation. It is to examine the justifiability or necessity for project implementation |
| 2) Effectiveness  | The effectiveness concerns the extent to which the project purpose has been achieved, or is expected to be achieved, in relation to the outputs produced by the projects.   |
| 3) Efficiency     | The efficiency is a measurement of productivity of the implementation process: how efficiently the various inputs are converted into the outputs.   |
| 4) Impact         | The impact is any intended or unintended, direct or indirect, positive or negative change that has been brought about as a result of the Project implementation.  |
| 5) Sustainability | The sustainability is a measurement on whether or not the outcomes of the Project are likely to continue after the Project comes to an end.   |

### 1-7 Limitations and Constraints of the Study

As the Study was conducted in a limited time, there may have been any aspects which could not thoroughly be reviewed or analyzed. The coverage of the interviewees was also limited to a part of the entire group of relevant personnel and beneficiaries of the Project, which implies the possibility that some findings may be skewed, reflecting the subjective opinions of the particular interviewed individuals. It is thus understood that these limitations may have somewhat influenced the findings presented in this report.

## 2. Achievements and Implementation Processes

During the Study, the performances of the Project including inputs, activities and outputs, as well as the implementation processes were reviewed to assess the degree of achievements, the results of which are described in the following:

### 2-1 Inputs

It was confirmed that the Project has harnessed the following inputs along with the plan stated in PDM and PO.

## 2-1-1 Japanese side

### 1) Dispatch of experts to the Philippines

Both the long and short term Japanese experts have so far been dispatched to the Project as shown in the following Table 2-1.

Table 2-1: List of Japanese Experts

Sl.	Title / Field of Expertise	Period of assignment
<Long-term Experts>		
1	Project Coordination / Human Resource Development	Aug 2, 2010 - Aug 1, 2012
2	Awareness Building / Human Resource Development	Aug 2, 2012 to date
3	Collection and Application of Fingerprints	Aug 2, 2010 to date
<Short-term Experts>		
1	AFIS Operation	Aug 30 – Sep 25, 2010
		Sep 12 – Sep 25, 2010
		Feb 20 - Mar 26, 2011
		Aug 7 – Sep 10, 2011
		Feb 26 - Mar 31, 2012
		Aug 5 – Sep 15, 2012
		Nov 18 – Dec 14, 2012

Source: Progress Report 2 (February 2013)

### 2) Provision of machinery and equipment

Machinery and equipment of a total value equivalent to 506,500.00 Philippine Pesos have been provided for the Project activities. The details of the machinery and equipment are shown in Annex 5.

### 3) Training of counterpart personnel in Japan

During the Project period, two (2) counterpart personnel were sent to Japan for training. The details of the training attended by the counterpart personnel are found in the Table 2-2 below.

Table 2-2: Details of the training of counterpart personnel in Japan

Position in the Project	Position in PNP	No.	Title of Training Course	Venue of Training	Training Period
AFIS senior operator	Police Inspector	2	Teaching Method on Fingerprint Identification (J11-21815)	Japan National Police Agency	Jun. 7 - Jul. 8, 2011

Source: JICA Philippine Office record, After activity report by the trainees cited in Progress Report 2 (Feb 2013)

### 4) Bearing of local costs

A total amount of 1,725,817.70 Philippine Pesos has been provided to supplement a portion of

operational expenses for the Project activities by the end of December 2012, as indicated in the following Table 2-3.

Table 2-3: Local Expenses borne by the Japanese Side (Philippine Pesos)

Year <sup>(*)</sup>	2010	2011	2012 <sup>(*)</sup>	Total
Local Expenses	11,636.95	12,097.30	1,702,083.45	1,725,817.70

Note \*1: Figures are based on the Japanese Fiscal Year (April – March).

Note \*2: Figures are based on the accounts settled by the end of December 2012.

Source: Documents prepared by the Project

## 2-1-2 Philippine side

### 1) Appointment of the counterpart personnel

A cumulative total of fifty (50) counterpart personnel have been assigned to the Project from July 2010 to December 2012 in accordance with the list of the PNP counterparts in the R/D from DIDM, DIDM, CL-HQ, and Model Police District. A list of the counterpart personnel is found in Annex 6.

### 2) Provision of facilities

The necessary office spaces with office equipment have been provided for the Project at PNP HQ in Camp Crame, Quezon City. The expert on collection and application of fingerprints and the Project secretary are provided with one office at the Training Service Center managed by DIDM, and the expert on awareness building/human resource development and the Project coordination staff work at another office in the Fingerprint Identification Division (FPID), CL. Training facilities in the PNP HQ, such as PNP Training Hall and the Training Service Center, were also utilized for the training activities organized by the Project.

### 3) Allocation of the operational costs

The PNP has shouldered the operational costs such as utility bills for water, electricity, etc. of the offices of experts, as well as transportation expenses of the counterpart personnel upon training activities carried out outside the PNP HQ. It is also to be noted that the PNP has allocated maintenance service cost of the AFIS equipment, i.e. approximately one (1) million Philippine Pesos per month.

## 2-2 Achievement of the Outputs

The Project has implemented its activities as per stipulation in the PDM, initially with the Eastern Police District (EPD) chosen as the Model Police District. However, the expansion of the model activities to the other four (4) districts in the National Capital Region (NCR) was proposed and approved at a Project Management Committee meeting held on May 20, 2011, while maintaining the EPD as the Model Police District with its baselines and primary targets for the

Project evaluation. As the expansion was not reflected in the PDM, the Team reviewed the Project's achievements in line with the original indicators for the Model Police District but also referring to the performances of the other police districts in NCR<sup>1</sup>.

It has been confirmed that the Project has been implemented without notable delays and any critical problems. It is thus assumed that the Project would come up with both of its expected outputs by the end of the cooperation period. The degrees of achievement of the outputs are described in the following:

### 2-2-1 Output 1

The system of collecting and delivering ten-prints and latent-prints from police stations and CL in the Model Police District to CL-HQ is enhanced.
<i>Indicators</i>
1-1 Number of collected and delivered ten prints in the jurisdiction of Model Police District is increased from 733 in 2009 to 7,916 at the end of the project
1-2 Number of collected and delivered latent prints in the jurisdiction of Model Police District is increased from 269 in 2009 to 1,641 in 2013
1-3 LOI concerning appropriate collection and delivery of ten- and latent-prints is established in Model Police District.

#### *Activities and achievements:*

The Project has so far conducted three (3) batches of training sessions on scientific method of fingerprint processing for police investigators, which were attended by a total of 144 investigators from NCR, i.e. 24.7% of the total of 583 investigators in the jurisdiction. The investigators who completed the training sessions have then undergone the on-the-job training (OJT), in which they had the hands-on practices with Scene of Crime Operations (SOCO) team members at actual crime scenes. Upon successful completion of their training, these trained investigators were provided with fingerprint collection kits that were composed of equipment for collecting ten and latent prints, two kind of powders, latent print lifters, magnifier, flashlight and stationary. The Project has also conducted three-day fingerprint seminars for a total of forty-two (42) chiefs of investigation offices, who are to supervise the activities of the investigators.

Thus, even after the Project period, it is expected that PNP will take initiative to continue and expand these trainings along with the best use of the outcomes of In-Country Training Program (ICTP) on Trainers' Training for Scientific Methods of Processing Fingerprints.

Aside from these training, information-drive activities have been conducted through various means, such as contribution of articles to periodical newsletters of DIDM, setting up of a Facebook site, and production of posters for AFIS awareness building and for enlightening police investigators on the importance of crime scene preservation, while production of a DVD is scheduled for coming

<sup>1</sup> Due to this expansion, some of the figures related to the Project activities in this report are not disaggregated to refer solely to the achievements of Model Police District.

months in 2013. In addition, the Project has initiated a commendation activity since August 2012 to further encourage the investigators to process crime scenes and to collect latent prints, and a total of forty-seven (47) police investigators, thirty-one (31) operational units such as police stations and district CLs have been awarded by the end of 2012.

Through these activities, the number of ten and latent prints collected in and delivered from the Model Police District as well as in the entire NCR have steadily increased as shown below in the Tables 2-4 and 2-5, respectively. Although the performance of the Model Police District alone has indicated promising achievement, the detailed monitoring on individual performances revealed that only about 43% of the trained investigators have ever processed crime scenes and lifted the latent prints and that about 25% out of the 43 operational units i.e. police stations and police district headquarters, has not yet been involved in crime scene processing with latent print collection. Accordingly, PNP needs to take its further efforts to put the training results into practice on the ground.

Table 2-4: Increase of the number of ten prints and latent prints in the Model Police District

Types of fingerprint	Baseline (2009)	2010	2011	2012	Total (2010-12)	Target	Achievement (%)
The number of ten prints collected and delivered	733	1,222	3,255	3,389	7,866	7,916	99.4%
The number of latent prints collected and delivered	269	184	486	607	1,277	1,641	77.8%

Table 2-5: Increase of the number of ten prints and latent prints in the NCR

Types of fingerprint	Baseline (2009)	2010	2011	2012	Total (2010-12)	Target	Achievement (%)
The number of ten prints collected and delivered	6,063	5,712	15,105	14,781	35,598		
The number of latent prints collected and delivered	943	658	1,849	1,974	4,481		

Source: Progress Report 2 (February 2013)

As for the indicator 1-3, a Letter of Instruction (LOI) (LOI 02/10: Project on Enhancing Procedure for Collection and Application of Fingerprints at EPD as an mPD) was issued on October 14, 2010, followed by the issuance of an implementation plan (ImPLAN) on October 26, 2010. The LOI was followed by the issuance of another LOI (LOI 02-2011: Procedure for Collection of Ten prints of All Booked Suspects at Police Station Nationwide) on March 17, 2011. Furthermore, another LOI (LOI 01/2012: Project on Enhancing Procedure for Collection, Submission and Application of latent Prints as well as Utilization of AFIS "HITS"/Identical Results in NCRPO) was issued on March 22, 2012. It is considered with these LOIs that the necessary regulatory measures for the collection of ten and latent prints have been established in the NCR including the Model

Police District.

Based on the findings above, it is confirmed that all of the indicators for this output have mostly been achieved.

**2-2-2 Output 2**

The skills in latent- to ten-print inquiry and tracing other crimes of identified suspect are upgraded.
<i>Indicators</i>
2-1 Number of cases of ten-print registration is increased from 11,794 in 2009 to 114,992 July 2013
2-2 Number of ten print inquiry is increased from 14,045 in 2009 to 150,984 in 2013
2-3 Number of cases of latent-print registration is increased from 1,041 in 2009 to 9,095 in July 2013
2-4 Number of cases of latent print inquiry is increased from 3,818 in 2009 to 9,095 in 2013
2-5 8 AFIS operators train 157 other operators for upgrading the skills of fingerprint identification

**Activities and achievements:**

A series of in-house seminars and workshops on AFIS operation and latent print examination was conducted in which a cumulative total of 224 AFIS operators and fingerprints examiners at the Fingerprint Identification Division (FPID) at PNP HQ have participated (the details of these in-house seminars are found in Annex 7). Aside from these formal training, hands-on training for the operators at the AFIS operation room have been provided by the short-term expert on AFIS operations.

The Project has also conducted advanced seminars and OJTs on fingerprint photography for preservation of latent print images for concerned officers at AFIS Branch in the CL-HQ, while issues of the digitalization of the preservation of latent print images are currently contemplated by the concerned senior officers with the support of Japanese experts.

Through these activities, the performances in terms of registration and inquiries<sup>2</sup> of fingerprints have been improved as summarized in the Table 2-6 below.

Table 2-6: The number of registration and inquiries of ten prints and latent prints

Year		2009	2010	2011	2012	Total (2010-12)	Target	Achievement (%)
Ten prints	Registration	11,794	18,282	38,620	37,428	94,330	114,992	82.0%
	Inquiries	14,045	20,113	41,964	41,598	103,675	136,939	75.7%
Latent prints	Registration	1,041	1,594	2,288	2,466	6,348	9,095	69.8%
	Inquiries	3,818	7,391	4,695	3,230	15,316	9,095	168.4%

Source: Progress Report 2 (February 2013)

<sup>2</sup> There is, however, a controversy in terms of appropriateness of the number of inquiries as the indicator to measure the skill enhancement: the increase of the number of registration does not always accompany proportionately the increase of the number of inquiries, because the AFIS operators do not need to inquire a latent print repeatedly if the image of the print is clear enough.

As for the capability as trainers, the AFIS operators and fingerprint examiners at CL-HQ were also given training to be trainers on the subjects related to fingerprint encoding, examination, tracing and verification. So far, eight (8) of them have been serving as instructors in a series of in-house training for AFIS operators at the CL-HQ. They have so far been mobilized as trainers in a total of 26 training, which were attended by a cumulative total of 509 technical staff of CL-HQ, among whom 101 were the AFIS operators. The AFIS operators trained have currently been invited as resource persons to the regular training courses organized by the School for Investigation and Detective Development (SIDD) of DIDM, through which the competencies of these CL officers as trainers would continuously be improved.

Based on the confirmation of the above-mentioned indicators, it is confirmed that this output has duly been achieved.

### 2-3 Achievement of the Project Purpose

PNP's capacity on AFIS utilization is enhanced through strengthening the comprehensive system of collecting, submitting and verifying ten-prints and latent-prints.
<i>Indicators:</i>
1. Standardized manual that includes work flow from collection of fingerprint images to their identification is established.
2. Number of "Hit" on fingerprint inquiry is increased from the 29 in 2009 to 276 at the end of the Project

#### *Achievements:*

As for the first indicator for the Project purpose, i.e. establishment of a standardized manual, many controversies were pointed out during the discussion because there has not been any clear and commonly agreed definition to date of "standardized manual" to objectively measure the degree of capacity enhancement: the Team thus examined the achievement of the Project purpose based on the interpretation that this particular indicator indicates the existence of a set of the formal directives such as LOI and/or Standard Operating Procedures (SOP) related to AFIS<sup>3</sup>.

There have been several directives relevant to the AFIS in the forms of LOIs and guidelines issued along with the implementation processes of the Project, such as LOI 02-2011 mentioned earlier in this report, and the "Guidelines in Accepting or Rejecting Accomplished Fingerprint Cards dated March 12, 2012". There has also been other relevant instructional documents including LOIs and SOPs relevant to AFIS and fingerprint collection, SOCO manuals and fingerprint examiners guide, some of which are with concrete procedural flow charts. Based on the facts above, the progress of preparation and compilation for "standardized manual" has been observed. Hereafter, it

<sup>3</sup> The logical basis for the Team's interpretation are as follows: firstly, both LOIs and SOPs are stipulated as means of verification of the indicator in PDM. And secondly, there is already a comprehensive investigation manual of PNP that has recently been formulated and formally distributed through the assistance of European Union over a period of past four (4) years.

y.

is expected for PNP to prepare and issue the official directives such as SOPs and LOIs especially on collection, delivery, and examination of latent prints, with possible modifications wherever appropriate, which would serve as the basic reference to contribute to the enhancement of PNP's capacity on AFIS utilization.

As for the increase of "Hit" on fingerprint inquiry, promising progress has been observed. By the end of December 2012, the total number of "Hit" has increased to 187, achieving about 75% of the target as shown in the Table 2-7 below. If the same trend as the average annual increment over past three years, i.e. 41% increase against the number of "Hit" of the previous year, the estimated number of "Hit" for the remaining period of the Project would mark about 98, thus the total number of "Hit" for the entire duration of the Project would reach to 285, exceeding the target figure of this indicator.

Table 2-7: Increase of the number of "Hit" of fingerprint inquiry

Year	2009	2010	2011	2012	Total (2010-12)	Target	Achievement (%)
No. of "Hit" of fingerprint inquiry	29	48	60	79	187	247	75.7%
Annual increment (%)		65.5	25.0	31.7			

Source: AFIS statistics cited in Progress Report 2 (February 2013)

Through the examination on information above, it is expected that the Project purpose would satisfactorily be attained by the end of the cooperation period.

**2-4 Prospect of the Overall Goal**

PNP's capability on criminal investigation is enhanced through utilization of AFIS.
<i>Indicators:</i>
1. Number of suspects identified through fingerprint identification is increased from 16 in 2009 to 136 in 2013

**Progress and Prospect:**

Against the target of 136 suspects to be identified in 2013, the Project has already recorded 100, i.e. about 74% of target achievement, by the end of December 2012, which is considered as a promising progress. In the interviews from the counterpart personnel, the plan to register the tenprints of all the police officers into the AFIS system has been shared, as the means for further application of AFIS. This could foster the acknowledgement of AFIS in PNP, as well as contributing the increase of the "hit" cases.

Table 2-8: Increase of the number of suspects identified through fingerprint identification

Baseline (2009)	2010	2011	2012	Total (2010-12)	Target	Achievement (%)
16	25	39	36	100	136	73.5%

g.



Therefore, positive impacts on the overall goal are anticipated, and overall goal is expected to be achieved in the future, given that the necessary interventions for further dissemination and scale up of achievements of the Project would continuously be extended through the future efforts of the PNP.

## **2-5 Implementation Processes of the Project**

### **(1) Decision making and monitoring mechanism**

The Project Management Committee (PMC), which is the decision-making and overseeing authority of the Project to review the progress, to endorse the plans for the upcoming period, and to make decisions on the issues related to the Project implementation, has so far been held only three (3) times despite of the stipulation in the R/D, due to the frequent transfer of the counterpart personnel, especially among those in the managerial positions. In order to overcome any problem attributed by the shortcomings, the Project have organized other forms of meetings such as Project Internal Review and Planning Workshops, Project Implementation Review (PIR) meeting, Technical Working Group (TWG) meetings, and so forth. The details of these meetings are shown in the Annex 8.

### **(2) Coordination and communication with counterpart personnel and other stakeholder**

It was reported from the interviewed counterpart personnel that there has not been any notable problem in terms of communication and coordination with the Project personnel, despite of the scattered location of their assignments. During the interviews, the stakeholders from different offices unanimously acknowledged with appreciation the efforts made by the Project to keep them well informed and involved. The Project have regularly consulted with and given prior notices through frequent contacts via mobile phones and Short Message Services (SMS) to respective officers in different offices, including those in the Model Police District and NCRPO. As part of the information drive, the Project has provided information on its activities in the periodical publications of DIDM and CL, which have also contributed to regularly furnish the stakeholders with the updates on the progress of the Projects.

## **3. Results of the Evaluation based on the Five Criteria**

Through the Study, the relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability of the Project were assessed, the major findings of which are described below.

### **3-1 Relevance**

The relevance of the Project is evaluated as fair based on the following confirmations:

#### **(1) Relevance to the development policies and sector programs of GoP**

In the current Philippine Development Plan (PDP: 2011-2016), good governance and rules

of law are considered as one of the challenges to be addressed in the country. As one of the strategies to strengthen the rule of law, the PDP recognizes necessity to increase resources for justice sector agencies and quasi-judicial bodies, and it clearly stipulates the importance “to modernize and upgrade facilities for law enforcers such as the PNP and the NBI crime laboratories, forensic investigation facilities and equipment”.

The same aspects were also cited in the Peace and Order Agenda for the Transformation and Upholding of the Rules of Law (PATROL) Plan 2030 of the PNP, one of the priority focuses of which is put on the processing of excellence, or more concretely, on the achievement of excellence in performing the integrated “QUAD.+” operations by increasing the crime solution efficiency through further employment of forensic science in crime investigation. As a repercussion to these statement, it is highlighted as one of the major objectives in the latest strategic framework of the PNP termed as “CODE-P: 2013 and Beyond” that the PNP should fully implement the adopted Information - Communication Technology (ICT) -assisted based systems, including AFIS to support administrative functions, investigation and police operations so as to achieve excellence in their services. The Project is thus considered to be very much consistent with the policy directions of GoP.

(2) Consistency with the ODA policies of GoJ

In line with the previous Country Assistance Program for the Republic of the Philippines (2008), the Project was considered as one of the vital components of the good governance program which was to contribute to the improvement of business and investment environment i.e. one of the priority means to achieve the sustainable economic growth of the country. It should be noted, however, that the support for the improved governance is no longer highlighted in the latest policy document formulated in 2012, as the emphasis of GoJ’s ODA policy has shifted to further enhance the investment environment. Nonetheless, there has not been any discrepancy in this regard, as there is also a stipulation in the new policy of 2012 that the on-going projects that had started prior to the formulation of the new policy should properly be implemented.

(3) Relevance to the needs of target beneficiaries

The relevant authorities of the PNP, counterpart personnel, and the beneficiary officers have unanimously shared with the Team their high appreciation on enhancement of technical skills of the relevant personnel engaged in the collection of fingerprints and operation of AFIS. With the efforts of the Project, the AFIS database has been enriched, leading to the increase of the “Hit”cases, which has brought enlightenment and motivation among the relevant police officers to further promote application of AFIS in their policing. It should also be noted that, as some counterpart personnel put it, AFIS has now been recognized as a “revolutionary” equipment for

investigation. It is therefore understood that the contents and focus of the Project have adequately addressed the needs of the beneficiaries.

(4) Appropriateness of the project approach

The Project has been designed to develop the results of previous cooperation of Japan such as the provision of AFIS in 2003 and the previous technical cooperation project (2006-2010). In addition, the technical competence of Japan is high enough in this field of cooperation since the Project has been based on the experience of introducing and developing the fingerprint identification system and its application in investigation activities in Japan. Hence the approach of the Project is appropriate.

**3-2 Effectiveness**

The effectiveness of the Project is assessed as high though the following analysis:

(1) Achievement of the Project purpose

The Project purpose is to enhance the PNP's capability on AFIS utilization through strengthening the comprehensive system of collecting, submitting and verifying ten prints and latent prints. As has been reviewed in the previous section, collection and submission of fingerprints in the Model Police District as well as in the NCR has considerably been increased through training of field investigators, and the technical skills of the CL have also been upgraded, resulting in the increased number of registration. As continuous efforts are being made by the PNP to expand and to accelerate the AFIS operations, it is expected that the Project purpose would satisfactorily be achieved by the end of the cooperation period.

(2) Contribution of outputs to the achievement of the Project purpose

The output 1 is aiming to enhance of the system of collection and delivery of fingerprints from the field unit such as police stations and district CL, which is almost achieved at the time of the Study with trained officers in the field and relevant official directives issued. The output 2 deals with the improvement of technical functions of the CL-HQ on verification, registration and inquiries, which has also successfully been in progress. Since the collection and delivery of the fingerprints from the field and the processing of data for AFIS at CL-HQ are essential aspects of AFIS operation, these two outputs are equally contributing to the enhancement of the PNP's capacity on AFIS utilization, and the logical sequence between the outputs and Project purpose is found to be appropriate.

(3) Analysis of factors

1) Promoting factors

The NCRPO has implemented some pilot activities for police reform aside from the activities of the Project, and the effective institutional arrangements such as the

4.

establishment of “investigation teams” in each police station that are composed of several members who process crime scenes together has already been introduced. These new initiatives helped the investigators who were trained by the Project to concentrate on forensic investigation such as latent-print collection, and contributed to the re-echoing of their learnt skills to other non-trained investigators in the team. This effort of NCRPO should thus be appreciated as one of the promoting factors. Another aspect to be looked into was the introduction of commendation of the outstanding officers and police units based on their performance of crime scene processing and fingerprint collection. This initiative has not only enhanced the motivation among the trained officers to make further individual efforts, but also created a sense of competition in good manner among the police stations, thus encouraged the improved supervision by the relevant overseers.

#### 2) Hampering factors

There have been quite frequent transfers of the personnel in the relevant offices of the PNP, and many of the counterpart personnel at DIDM and CL have transferred to other units during the Project implementation. It was reported that, when the top management officers in the DIDM were transferred, their positions were left vacant for quite a long time in 2012, resulted in the delays in issuance of proper directives that are required for the activities of the Project, which inevitably caused slowing down of day-to-day operations. The adverse effects associated with transfers of the personnel, especially of those who are in the overseeing positions, should thus be noted as one of the hampering factors.

#### (4) Important Assumptions

It should be noted that, in certain stage of the Project implementation, deployment of the trained investigators in the positions other than those related to investigation, such as Police Community Precincts (PCP), has somewhat negatively affected both application of learnt skills and accumulation of actual experiences in crime scene processing by the trained officers, although administrative measures have currently been taken to address the concern thus improvement would be expected in future course.

### 3-3 Efficiency

The efficiency of the Project is assessed as high based on the following examinations:

#### (1) Inputs from Japanese side

The Japanese experts in the relevant fields of expertise have been dispatched as scheduled. Both the long-term and short-term experts have properly played their expected roles in the Project, which have been appreciated by the counterpart personnel as well as by the beneficiary officers. The machinery and equipment required for the Project activities and technical transfer have duly been provided and kept in good conditions. These machinery and equipment are utilized in the training and information-drive activities as well as regular monitoring activities of

the Project. As for the training of the counterpart personnel in Japan, it was appreciated that the subjects of these training were adequate and useful and that the learning from the training have been properly applied in carrying out both the activities of the Project and mandates of the organization which the participants belong to.

(2) Inputs from the Philippine side

The counterpart personnel were assigned from DIDM, CL and Model Police Districts to participate in the Project activities, although frequent transfers of the counterpart personnel, especially of those in the decision making and supervising positions, was pointed out as one of the problems. The provision of the office spaces with basic facilities have contributed to the management of the Project, while the easy and flexible access to the PNP's training facilities have facilitated the training activities to be smooth and efficient.

(3) Collaboration with other JICA assistance

The Project has closely been collaborating with other technical cooperation initiatives by JICA, i.e. ICTP on Trainers' Training for Scientific Methods of Processing Fingerprints as well as dispatch of individual experts in the relevant fields such as forensic science and initial investigation. The former has helped the Project to further capacitate AFIS operators and fingerprint examiner as the trainers and to expand the achievement of the Project to the other regions nationwide, while the latter has considerably contributed to the implementation of the Project as additional inputs of expertise. These collaborations have brought about synergy and multiplied effects, thus should be considered as one of the attributing factors to the efficiency of the Project.

**3-4 Impact**

In view of the following aspects, it is generally assumed that certain positive impacts may be expected on the overall goal and that some positive ripple effects have been derived. It is noted, however, that further efforts should be made not only to continue the efforts within PNP but also to create facilitating judicial and other environment to realize further impacts on the ultimate goal of AFIS.

(1) Impact on the overall goal

The overall goal of the Project is the enhancement of the PNP's capacity to manage AFIS for arresting suspects, the indicator for which was set on the increase of the number of suspects identified through fingerprint identification. Against the target of 136 suspects to be identified in 2013, the Project has already recorded 100, i.e. about 74% of target achievement, by the end of December 2012, which is considered as a promising progress. There have also been various efforts initiated by the PNP to further streamline the AFIS in the investigation procedures and to

4.

enhance its utilization and application by enrichment of the AFIS database through mobilization of field investigators nationwide. Therefore, positive impacts on the overall goal are anticipated, given that the necessary interventions for further dissemination and scale up of achievements of the Project would continuously be extended through the future efforts of the PNP.

(2) Positive impacts

Many of the interviewed counterpart personnel pointed out that the relationship between the DIDM and the CL has become much closer as the result of the involvement of investigators in crime scene processing as well as through the on-the-job training in which the investigators are jointly worked with SOCO team under their supervisions. However, it should be noted that many of the relevant personnel involved in the Project sense that the “hit” i.e. the identification of suspects by fingerprint itself is not the terminal goal of AFIS, and that they recognize strong necessity to realize further impacts on the case filing, arrest of the suspects, and ultimately on the solution of the crime cases in the court processes.

(3) Negative impacts

There has not been any negative impact observed or reported during the Study.

### 3-5 Sustainability

The sustainability of the Project is assessed as moderate, as described in the following:

(1) Policy and institutional sustainability

The Project is implemented in line with the PATROL Plan 2030, i.e. a long-term transformation plan of the PNP, as well as with the CODE-P, the latest strategic focus, which recognizes the importance of adoption of ICT-assisted system including AFIS in crime investigation. With these plans of PNP, it is generally assumed that the policy support would continuously be secured for the coming years. It should be also noted that the various official directives have been issued to facilitate the mainstreaming and enhancement of AFIS utilization in the investigation activities, with which institutional sustainability to a certain extent would possibly be assured.

(2) Financial and Organizational sustainability

It has been observed that the PNP have continuously made its sincere efforts to secure the resources of their own to be allocated for the maintenance of AFIS, including the procurement of the spare-parts. The considerably large budget has also been secured for the replacement of AFIS, which should be recognized as a clear indication of the PNP’s sense of ownership. Fair financial sustainability would thus be expected based on these commitments. As for the organizational aspects, there are still some concerns related to the human resources management,

such as frequent transfer of relevant personnel especially in the leadership positions, as well as the deployment of trained officers. Although various efforts have been made to ensure the continuity of the commitment of the managing authorities and the services of trained officers at the working level, this aspect should continuously be monitored in order to ensure the organizational sustainability

**(3) Technical sustainability**

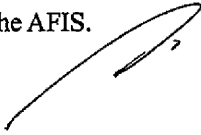
There seem to be several concerns in terms of the technical sustainability of the Project. First of all, the procurement procedures for AFIS replacement are currently in process at the PNP, and due progress of the procedures, including the assurance of data compatibility, is the most crucial point of discussion in terms of the technical sustainability of the Project. Aside from the AFIS replacement, there are also some other issues to be addressed, such as the necessity of enhancement of technical capabilities through further accumulation of practical experiences, both in terms of collection of fingerprints by field investigators and in terms of teaching skills as trainers among the AFIS operators. With further practical experience accumulated, their level of skills is expected to be enhanced.

As for the current way of preservation of the fingerprint evidences, black and white photography, it is necessary to explore the ways for digitalization from the view point of sustainability, since the black and white films that are used at present would not be available any longer in the market.

**4. Conclusion**

It was confirmed through the Study that the expected outputs have largely been achieved without any critical problem or notable delay in the implementation of the Project. It was also assumed that the Project would likely achieve its purpose with continuous efforts for the rest of cooperation period. It is thus concluded that the Project will be terminated as stipulated in the R/D that was originally agreed upon.

It is expected that PNP will take necessary measures based on the recommendations mentioned below, as collaborating with other technical cooperation initiatives by JICA such as ICTP on Trainers' Training for Scientific Methods of Processing Fingerprints and dispatch of individual experts in the relevant fields such as forensic science and initial investigation, for further utilization of the AFIS.



4.

## **5. Recommendations**

### **5-1. Recommendation for the Remaining Period of the Project**

#### **(1) Further promotion of the collection and delivery of latent prints by field investigators**

Although the number of fingerprints collected, delivered and registered during the Project has notably increased in the Model Police District as well as in the NCR, further improvement of techniques of field investigators and dissemination of the techniques are necessary in order to increase the number of latent prints registered. Accordingly, more efforts need to be taken for further application of AFIS.

### **5-2. Recommendations for the Future (during and after the Project period)**

#### **(1) Sound replacement of AFIS**

As discussed in the previous sections, the sound replacement of the AFIS is the most essential pre-requisite for future course of its operation. It was confirmed during the Study that the necessary actions are currently being taken by the PNP, which should be continued with proper monitoring so as to further ensure and accelerate the required processes for procurement. Relevant authorities of PNP are thus requested to put their continuous efforts to realize the sound replacement of AFIS at the earliest point of time in near future.

#### **(2) Issuing official directives**

In order to entrench the outcomes of the Project, the PNP needs to revise the existing guidelines, and prepare and issue the official directives such as SOPs and LOIs concerning collection, delivery, and examination of latent prints, based on the project achievements.

#### **(3) Strengthening of monitoring on AFIS operations**



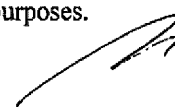
It has repeatedly pointed out by most of the interviewed stakeholders of the Project that further enrichment of the AFIS database is essential to promote the effective utilization of AFIS. As the appropriate collection of fingerprints from all parts of the country would be one of the most vital means to increase the volume of data, the status of collection of fingerprints should be facilitated and closely monitored by the relevant personnel in the PNP who supervise the fingerprint collection by SOCO personnel and field investigators. It is thus recommended to the concerned directorates of the PNP to establish effective monitoring system to regularly gather and update the data on collection, delivery, and registration of fingerprints in the future.

#### **(4) Examination on digitalization of fingerprint images**

Among the relevant personnel in the CL-HQ, the issues related to the preservation of fingerprint evidences by photography have been discussed as one of the foreseen challenges



from a longer-term perspectives; the black and white films that are currently used would not be available any longer in the market whenever the manufacturers would cease the production due to the drastic decrease of demands. It is thus deemed essential to examine possible measures to introduce any system to digitalize the fingerprint images for preservation purposes.



**Annex 1: Project Design Matrix (PDM)**

Project Title: Project on Enhancing the Capacity for Collection and Application of Fingerprints

Implementing Agency: The Philippine National Police (PNP)

Target Group: DIDM, CL & Police Investigators

Cooperation Period: July 2010-July 2013

Target Area: Model Police District and Nationwide

Version: 2

Date: February 2, 2012

Project Summary	Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal</b></p> <p>PNP's capability on criminal investigation is enhanced through utilization of AFIS.</p>	<p>Number of suspects identified through fingerprint identification is increased from 16 in 2009 to 136 in 2013</p>	<p>Report from DIDM and/or CIDG, progress and monitoring reports of the project</p>	<p>Fingerprint information is utilized in criminal investigation as a part of forensic evidences.</p>
<p><b>Project Purpose</b></p> <p>PNP's capacity on AFIS utilization is enhanced through strengthening the comprehensive system of collecting, submitting and verifying ten-prints and latent-prints.</p>	<p>1 Standardized manual that includes work flow from collection of fingerprint images to their identification is established. 2 Number of "Hit" on fingerprint inquiry is increased from the 29 in 2009 to 276 at the end of the project.</p>	<p>1 PNP manual, LOIs, SOP's 2 Regular reports from CL</p>	<p>1) Human resource management for collecting, submitting and identifying ten-prints and latent-prints are established. 2) Significance of Fingerprint information for criminal investigation is not changed.</p>
<p><b>Outputs</b></p> <p>1. The system of collecting and delivering ten-prints and latent-prints from police stations and CL in the Model Police District to CL-HQ is enhanced.</p> <p>2. The skills in latent- to ten-print inquiry and tracing other crimes of identified suspect are upgraded.</p>	<p>1-1 Number of collected and delivered ten prints in the jurisdiction of Model Police District is increased from 793 in 2009 to 7,919 at the end of the project 1-2 Number of collected and delivered latent prints in the jurisdiction of Model Police District is increased from 269 in 2009 to 1,641 in 2013 1-3 LOI concerning appropriate collection and delivery of ten- and latent-prints is established in Model Police District. 2-1 Number of cases of ten-print registration is increased from 11,794 in 2009 to 114,992 July 2013 2-2 Number of ten print inquiry is increased from 14,045 in 2009 to 150,984 in 2013 2-3 Number of cases of latent-print registration is increased from 1,041 in 2009 to 9,095 in July 2013 2-4 Number of cases of latent print inquiry is increased from 3,918 in 2009 to 9,095 in 2013 2-5 8 AFIS operators train 157 other operators for upgrading the skills of fingerprint identification.</p>	<p>1 Regular reports from Model Police District 2 LOI for the operation in Model Police District 3 Performance evaluation report of police investigators/ fingerprint examiners in Model Police District 1 Regular reports from CL 2 Seminar/OJT reports from AFIS trainers 3 Performance evaluation of AFIS operators by CL and Japanese Experts</p>	<p>1) Human resource management for collecting, submitting and identifying ten-prints and latent-prints are established. 2) Significance of Fingerprint information for criminal investigation is not changed.</p>
<p><b>Activities</b></p> <p>1-1 Assign the Model Police District on collecting and delivering ten-prints and latent-prints 1-2 Establish a mandate, procedure and regulatory measures in collecting and delivering ten- and latent-print information from police stations and CL in the Model Police District Office to CL-HQ 1-3 Provide technical and logistical support to police stations and CL in the Model Police District in collecting and delivering ten-prints of suspects and latent-prints at crime scenes 1-4 Conduct seminars and OJTs on fingerprint photography for records of latent-print images at crime scenes in the jurisdiction of the Model Police District 1-5 Monitor the progress of collection and delivery of fingerprint information from police stations and CL in the Model Police District to CL-HQ 1-6 Summarize the results and lessons of activities of the Model Police District and formulate the action plan to disseminate the operation to nation-wide 2-1 Conduct advanced seminars and OJTs on fingerprint encoding, latent- to ten-print inquiry and tracing other crimes by the identified suspect 2-2 Plan and implement internal skill development programs for current and newly recruited AFIS operators in the CL 2-3 Conduct advanced seminars and OJTs on fingerprint photography for preservation of latent-print images sent from the police stations and CL in Model Police District to NHQ/CL 2-4 Update statistics of fingerprint processed by AFIS on the daily, weekly and monthly bases and report them to the relevant sections 2-5 Modify the concerned procedures for upgrading the efficiency of fingerprint identification and feedback.</p>	<p><b>Input from Japan Side</b></p> <p>1 Long term Experts (Project Coordination/Human Resource Development, Collection and Application of Fingerprints) 2 Short term Experts (AFIS Operation, Fingerprint Photography, etc.) 3 Training in Japan (Teaching Method on Fingerprint Identification) 4 Provision of Equipment (Live Scanner of ten-print) 5 Overseas activity cost for Experts</p> <p><b>Input from the Philippine side</b></p> <p>1 To assign counterparts (1) Project Director (2) Project Manager (3) Project Management Committee Members (4) Senior officers of concerned Offices/Units (5) Administrative officers 2 To set up office space 3 To set up training facilities 4 Project cost - Running cost of daily work - Maintenance cost of equipment</p>	<p><b>Input from the Philippine side</b></p> <p>1 To assign counterparts (1) Project Director (2) Project Manager (3) Project Management Committee Members (4) Senior officers of concerned Offices/Units (5) Administrative officers 2 To set up office space 3 To set up training facilities 4 Project cost - Running cost of daily work - Maintenance cost of equipment</p>	<p>(Pre-condition) 1) Operation and maintenance for AFIS is secured. 2) Counterparts are assigned</p>

**Annex 2: Schedule of the Terminal Evaluation**

**[1<sup>st</sup> Mission]**

DATE		CONTENTS	NOTE
17 Feb	Sun	Arrival at Manila (JL741)	Arrival of Ms. Itagaki
18 Feb	Mon	Interview w/ Experts Courtesy Call to Director of DIDM Interview w/ DIDM RAD-CMD Interview w/ DIDM SIDD	
19 Feb	Tue	Interview w/ Experts Courtesy Call to Director of CL Interview w/ CL Interview w/ CL (Examiners and AFIS Operators)	
20 Feb	Wed	Courtesy Call to Director of NCRPO Interview w/ NCRPO, PDs, and PSs Meeting w/ JICA Office	Arrival of Mr. Kaneda
21 Feb	Thu	Meeting w/ JICA Office Interview w/ CL in 5 Regions	
22 Feb	Fri	Visitation to AFIS Division Interview w/ EPD PSs and Investigators	Marikina and Pasig
23 Feb	Sat	Document Preparation	
24 Feb	Sun	Document Preparation Internal Meeting	Arrival of Mr. Shio and Mr. Hoshino
25 Feb	Mon	Meeting w/ JICA Office and Experts Courtesy Call to Director of DIDM Meeting w/ DIDM	
26 Feb	Tue	Courtesy Call to Director of CL Meeting w/ CL HQ Courtesy Call to Chief PNP Courtesy Call to Director of NCRPO Meeting w/ NCRPO and PSs (EPD and Others)	
27 Feb	Wed	Meeting w/ Directorate of Logistics Meeting w/ EPJUST	
28 Feb	Thu	Meeting on M/M w/ DIDM and CL (Continued) Meeting with ADB Report to JICA Office	
1 Mar	Fri	Departure from Manila (JL742)	Departure of all the Mission members

**[2<sup>nd</sup> Mission]**

DATE		CONTENTS	NOTE
1 Apr	Mon	Arrival at Manila (JL741)	Arrival of Mr. Shio and Kaneda
2 Apr	Tue	Meeting on M/M w/ DIDM and CL	
3 Apr	Wed	Meeting on M/M w/ DIDM and CL (Continued) Signing of M/M Report to JICA Office	
4 Apr	Thu	Report to EOJ Departure from Manila (JL742)	Departure of Mr. Shio and Kaneda

Annex 3: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgement	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Achievement	Is the overall goal likely to be achieved?	Would PNP's capability on criminal investigation likely be enhanced through utilization of AFIS by year 2016?		Indicators, opinion of the Project personnel	Opinion of the Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
	Is the Project purpose achieved?	Would PNP's capacity on AFIS utilization likely be enhanced by the end of the cooperation period?	Prospects of achieving the project purpose	Indicators, opinion of the Project personnel	Project records, opinion of the Project personnel	Interview, discussion with Project staff
	Have the outputs been produced properly?	Has the number of collected and delivered ten prints in the jurisdiction of Model Police District been prepared?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel at Model Police Districts	Interview, discussion with stakeholders
		Has the number of collected and delivered latent prints in the jurisdiction of Model Police District been increased?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel at Model Police Districts	Interview, discussion with stakeholders
		Has the LOI concerning appropriate collection and delivery of ten- and latent-prints been established in Model Police District?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel at Model Police Districts	Interview, discussion with stakeholders
		Has the number of cases of ten-print registration been increased?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel	Interview, discussion with Project staff
		Has the number of ten print inquiry been increased?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel	Interview, discussion with Project staff
		Has the number of cases of latent-print registration been increased?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel	Interview, discussion with Project staff
		Has the number of cases of latent print inquiry been increased?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel	Interview, discussion with Project staff
		Have the AFIS operators trained other operators for upgrading the skills of fingerprint identification?	comparison with the target indicators	Output indicators, opinion of the experts and C/Ps	Project records and personnel, relevant operators	Interview, discussion with Project staff and operators
	Were the input made as planned?	Have the Japanese experts dispatched as planned?	Comparison with the planned figures	Records on Japanese experts	Project records	Document review, interviews
		Has the counterpart training conducted as planned?	Comparison with the planned figures	Records on counterpart training	Project records	Document review, interviews
		Have the equipment and machinery provided as planned?	Comparison with the planned figures	Records on equipment provision	Project records	Document review, interviews
		Have the counterpart personnel assigned as planned?	Comparison with the planned figures	List of counterpart personnel	Project records, opinions of experts	Document review, interviews
		Have the physical facilities provided as planned?	Comparison with the similar projects	Information on the facilities	Project records, opinions of experts	Interviews, ocular visit
	Implementation processes	Have the activities been implemented as scheduled?	Were the activities timely implemented?	Comparison with the PO	Actual implementation schedule	Project personnel, Project records
Was there any change in the activities and schedule of implementation from the original PDM and PO?			Comparison with the PDM and PO	Information on the changes that took place	Project personnel, Project records	Document review, interviews
Have there been any problem related to the management of the Project?		Were the Project activities regularly monitored?	Frequency and contents of monitoring	Monitoring mechanism, monitoring results of monitoring	Project personnel, Project records	Document review, interviews
		Were the communication among the Project personnel smooth?	quality of communication	Ways and contents of the daily and regular transactions among the Project personnel	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
		Were the counterpart personnel committed and involved actively in the Project activities?	Degree of C/Ps' participation	Examples of the activities that were mainly conducted by the counterpart personnel	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
		Has the decision making mechanism of the Project been functional?	How the problems faced were addressed	Information on the JCC and other decision making bodies	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
Are the implementing agencies well aware of the Project?		Have there been any special measures taken in terms of the managerial aspects of the Project?	Actual measures taken	Information on the measures taken by the Project	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
		Are the PNP, CL and model police districts committed to the Project?	Relevant documents and announcements	Cases and documents that indicate their commitment	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
Were there any special measures taken to ensure the smooth implementation of the Project?		Have there been any special measures taken in terms of implementation mechanism?		Information on the measures taken by the Project	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
		Have there been any special consideration given in terms of dealing with the target groups?		Information on the measures taken by the Project	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff
Relevance	Does the Project address the needs of the country, sector and the target groups?	Is the Project consistent with the development plans of Philippine Government?	Existence of the consistent stipulation in the document	Development plan of Philippine Government	Policy documents	Document review
		Does the Project appropriately address the sectoral issues of the development plan?	Existence of the consistent stipulation in the document	National policies & programs, policies and programs of implementing agencies	Policy documents	Document review
		Does the Project address the need of the target groups?		Baseline information, opinion of stakeholders	Project reports and personnel	Document review, interviews
	Is the Project priority in the Japan's foreign assistance policy and JICA's country programs?	Is the project relevant to the Japan's Aid Policies?	Existence of the consistent stipulation in the document	Priority directions in Japan's Aid Program	Japan's Foreign Assistance Policy	Document review
		Is the project relevant to the JICA's Program?	Existence of the consistent stipulation in the document	JICA's Program	JICA's Program	Document review, discussion with JICA staff
	Is the selection of target groups appropriate?	Have the size of the target group appropriate?		No. and location of police districts covered, No. of beneficiary officers	Project personnel, statistics, other secondary documents	Document review, interviews
	Have the relevant Japanese experiences been utilized?	Has the Project equitably brought about the benefit?	Benefits obtained by the different groups of target beneficiaries	Project benefits enjoyed by different group of target officers	Project records and personnel	Document review, interviews
		Has the cost been equally shared by the stakeholders?	Rate of cost sharing	Expenditure and source of funds	Project records and personnel	Document review, interviews
Effectiveness	Is the Project purpose achieved?	Is there any advantage of Japanese technologies?	Technologies transferred through the Project	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		How are the experiences of the foregoing and/or other cooperation utilized and applied?		Continuity of activities and contribution of the outputs of the foregoing/other projects	Project personnel, Project records	Document review, interviews
	Have the achievement of Project purpose resulted from the outputs?	Have the outputs been sufficient enough to achieve the Project purpose?	Levels of achievement of the Project purpose	Causal relationship between outputs and Project purpose	Project personnel, Project records, relevant documents	Interview, field visit, discussion with Project staff
		Has there been any factors contributing to the achievement of the Project purpose other than the Project activities?		Information on the related events, programs/projects of other organizations	Project personnel, Project records, relevant documents	Interview, field visit, discussion with Project staff

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgement	Data needed	Data source	Data collection method	
	Main question	Sub question					
Effectiveness	Has there been any influence of important assumptions?	Have the trained staff continuously been engaged in the relevant activities?	Rate of continuity	Information on the personnel transfers and activities of the trained staff	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		Has the human resource management for collecting, submitting and identifying ten-prints and latent-prints been established?	Human resource management system	Information on the human resource management	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		Have there been any change in the significance of fingerprint information for criminal investigation?	Recognition of significance	Any documents that declare official recognition	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		How the other factors affected the achievement of Project purpose?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff	
Efficiency	Were the activities appropriate to produce outputs?	Have the activities been sufficient enough to produce the outputs?	Levels of output achievements	Causal relationship between activities and outputs	Project records, opinion of the Project personnel	Interview, discussion with Project staff	
		Were the timing, number, duration, and fields of Japanese experts dispatched appropriate?	Comparison with the planned figures	Records on Japanese experts	Project records	Document review, interviews	
	Were the inputs appropriate to produce the outputs?	Were the timing, duration, contents of counterpart training appropriate?	Comparison with the planned figures	Records on counterpart training	Project records	Document review, interviews	
		Were the timing, volume, and specification of provision of equipment appropriate?	Comparison with the planned figures	Records on equipment provision	Project records	Document review, interviews	
		Were the timing, number, fields and competency of the counterpart personnel appropriate?	Comparison with the planned figures	List of counterpart personnel	Project records	Document review, interviews	
		Were the physical facilities sufficient to implement the Project activities?	Comparison with the similar projects	Information on the facilities	Project records, opinions of experts	Interviews, ocular visit	
	Were there any factors hindering or contributing to the efficiency of the Project?	Was there any influence from important assumptions?		Information on the staff transfer, human resource management system and official recognition on fingerprints	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff	
		Was there any other factors affecting the efficiency?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project personnel, Project records	Interview, discussion with Project staff	
	Impacts	Is the overall goal likely to be achieved?	Would the number of suspects identified through fingerprint identification likely be increased?	Comparison with the baseline	Information on the indicator	Project personnel, PNP data	Interview, discussion with stakeholders
			Would the fingerprint information be utilized in criminal investigation as a part of forensic evidences?	Comparison with the baseline	Information on the sample cases of utilization	Project personnel, partner agencies	Interview, discussion with stakeholders
Are the commitment of PNP secured?			Degree of commitment	Current program, future plan of the relevant institutions, opinion of the Project personnel	Relevant authorities of PNP, Project personnel	Document review, interviews	
Is there any possible factors that hinder or contribute to the achievement of the overall goal?				Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
Have there been any other ripple effects?		Has there been any effects beyond the target beneficiaries?	dissemination of technologies to other police organizations	Information on the sample cases of the technical and other diffusion	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		Has there been any unexpected effect on the policies and programs of implementing agencies?	changes in the policies and programs	Information on the relevant policies	Relevant documents, Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		Has there been any changes or formulation in terms of relevant organization, laws, rules and regulations?	changes in the organization, laws, rules & regulations	Information on the changes and new setup	Project personnel, staff of relevant institutions, relevant documents	Document review, interviews	
		Has there been any unexpected changes in technical and/or methodological aspects of criminal investigation?	existence of technical changes	Information on the changes that took place	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		Has there been any unexpected effect in terms of gender, human rights, poverty gap, peace and conflicts?	existence of social changes	Information on the cases of relevant events	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
		Has there been any unexpected effect on environment?		Information on the cases of relevant events	Project personnel, Project records	Document review, interviews	
Are the Impacts brought by the Project?	What are the factors that brought about the above mentioned positive and negative effects?		Information on the other interventions and events	Project personnel	Interview, discussion with relevant staff, document review		
Sustainability	Will the current policy on collection and utilization of fingerprints continue to be functional?	Is the possibility of continuation of current policy high?	Policy commitment	Current program, future plan of PNP, opinion of the Project staff	Policy documents, government officers, Project personnel	Interview, discussion with relevant staff, document review	
		Is there any alternative programs that can integrate the outcomes of the Project?	Existence of the relevant programs	Current program, future plan of the government, opinion of the Project staff	Policy documents, Project personnel	Interview, discussion with relevant staff, document review	
		Are the relevant authorities committed to continue the collection and utilization of fingerprints?	commitment of the institutions	Opinions of the stakeholders from relevant institutions	Project personnel, relevant authorities of PNP	Interview, discussion with Project staff	
	Are the implementing agencies capable to continue and/or to further expand relevant activities of the Project?	Are the counterpart personnel capable of carrying out the activities?	Comparison with the baseline	Levels of competence, confidence, experiences and performance	Project personnel	Interview, discussion with Project staff	
		Are the necessary budget and human resources allotted for the continuous collection and utilization of fingerprints?	Budget allocation, planned volume	Budget and human resource allocation plans of implementing agencies	Relevant authorities of PNP, budget documents	Interview, confirmation of documents	
	Will the technologies and methodologies introduced by the Project continuously be utilized?	Are other relevant officers capable to continue and expand their activities initiated during the Project?	Comparison with the baseline	Activity records and future plan of the stakeholders	Project personnel, other relevant stakeholders	Interview, discussion	
		Would the standardized manual likely be integrated and utilized in the police organizations under PNP?	Prospects on distribution and utilization	Information on the organizational setup and programs of the relevant institutions	Project personnel, staff of relevant institutions, programs	Interview, discussion	
		Are the CL and model police districts able to continuously collect, deliver and accumulate fingerprints?	Confidence of CL and model police districts	Information on the performances of CL and model police districts	Project personnel and staff of CL and model police districts	Interview, discussion with Project staff, document review	
		Are the relevant officers able to continuously perform fingerprint inquiry and tracing of identified suspects?	Confidence of relevant officers	Information on the performances of the relevant officers	Project personnel and staff of relevant institutions	Interview, discussion	
		Have there been any documents prepared and disseminated by PNP to ensure the future utilization of the technologies and methodologies on collection and utilization of fingerprints developed and introduced by the Project?	Existence of such documents	Information on the documents prepared and issued by the relevant authorities of PNP	Project personnel, Project records, relevant authorities of PNP	Interview, discussion with Project staff, document review	
Are there any factors that may affect the sustainability of the Project?	Is the necessary equipment properly maintained?	levels of maintenance	Budget allocation, maintenance records	Project records, Project personnel	Document review, interviews		
	Is there any negative influence on the social and cultural aspects that may become obstacles for future collection and utilization of fingerprints?		Information on the cases of relevant events	Project personnel, Project records, relevant authorities of PNP	Interview, discussion		
	Is there any possible factor that may inhibit the continuation of the activities?		Information on the cases of relevant events	Project personnel, Project records, relevant authorities of PNP	Interview, discussion		



**Annex 5: List of Machinery and Equipment**

as of February 21, 2013

Sl.	Name of equipment	Model	Cost	Place of Installation	Date of Installation	Condition	Frequency of Utilization (*)
1	Desktop computer	HP Pavilion P6-2112d PC	Php 46,500.00	NHQ Training Service	28-Mar-12	Good	A
2	Desktop computer	HP Pavilion P6-2112d PC	Php 46,500.00	NHQ Training Service	28-Mar-12	Good	A
3	Desktop computer	HP Pavilion P6-2112d PC	Php 46,500.00	NHQ Crime Laboratory	28-Mar-12	Good	A
4	Desktop computer	HP Pavilion P6-2112d PC	Php 46,500.00	NHQ Training Service	28-Mar-12	Good	A
5	Desktop computer	HP Pavilion P6-2112d PC	Php 46,500.00	NHQ Training Service	28-Mar-12	Good	A
6	Desktop computer	HP Pavilion P6-2115d PC	Php 59,500.00	NHQ Crime Laboratory	28-Mar-12	Good	A
7	Desktop computer	HP Pavilion P6-2115d PC	Php 59,500.00	NHQ Crime Laboratory	28-Mar-12	Good	A
8	Laptop Computer	TECRA R940-2000	Php 52,500.00	NHQ Crime Laboratory	30-Aug-12	Good	A
9	LCD Projector	EB-S12	Php 25,000.00	NHQ Crime Laboratory	30-Aug-12	Good	C (used for meetings & drive activities)
10	SLT & DSLR Camera	SLT-A35K with SAL1855 Lens	Php 31,500.00	NHQ Crime Laboratory	30-Aug-12	Good	C (for information drive activities)
11	Handy Cam Camcorder	HDR-XR260	Php 46,000.00	NHQ Crime Laboratory	30-Aug-12	Good	C (for information drive activities)
<b>Total</b>			<b>Php 506,500.00</b>				

**\* Classification of the frequency of use of the equipment**  
(by the manual for JICA coordinators)

Rank	statement	frequency	Remarks
<b>A</b>	used frequently	almost daily	
<b>B</b>	used well	1-3 times per week	
<b>C</b>	used in specific season(s) only		needs reasons
<b>D</b>	not so much used	3-11 times per year	needs reasons
<b>E</b>	not used by specific reason		needs reasons

91





**Annex 7: Record of seminars/workshops at FPID, CL-HQ**

Seminar date	Contents (Class level)	Participants			
		Affiliation	Male	Female	Total
Sep 16, 2010	Workshop on AFIS mechanism	AFIS	21	4	31
		FPID	1	5	
Sep 17, 2010		AFIS	21	3	30
		FPID	3	3	
Mar 10, 2011	AFIS Operational management	AFIS	2	1	3
Mar 16, 2011		AFIS	2	1	3
Mar 17, 2011		AFIS	2	1	3
Aug 16, 2011	Latent print inquiry and verification	AFIS	15	1	16
Aug 17, 2011		FPID	0	0	
		AFIS	8	2	10
		FPID	0	0	
		Aug 18, 2011	AFIS	12	0
FPID			0	0	
Mar 14, 2012	Latent print inquiry and verification (Primary)	AFIS	7	3	10
FPID		0	0		
Mar 15, 2012	Latent print inquiry and verification (Advanced)	AFIS	10	1	11
FPID		0	0		
Mar 16, 2012	Latent print inquiry and verification (Advanced)	AFIS	11	0	11
FPID		0	0		
Aug 22, 2012	Latent print examination (Advanced)	AFIS	14	1	15
FPID		0	0		
Aug 23, 2012	Latent print examination (Intermediate)	AFIS	10	2	12
FPID		0	0		
Aug 24, 2012	Latent print examination (Primary)	AFIS	7	7	14
FPID		0	0		
Dec 6, 2012	Latent and palm print examination (Primary)	AFIS	9	3	15
FPID		3	0		
Dec 7, 2012	Latent and palm print examination (Intermediate)	AFIS	12	0	13
FPID		0	1		
Dec 12, 2012	Latent and palm print examination (Advanced)	AFIS	14	1	15
FPID		0	0		
TOTAL		AFIS	177	31	224
		FPID	7	9	
		Sub-total	184	40	

Note: In addition, there were 2 training on Latent print examination (Primary) for six (6) staff of Cebu Regional CL Office, conducted on September 4 and 5, 2012.

Source: Progress Report 2 (February 2013)

9.

**Annex 8: List of Meeting related to Project Management**

Date	Name of meeting	Main agenda	Attendance
Oct 27, 2010	Joint Monitoring Committee	>Progress on Firearms control project and AFIS II project	DO, DIDM, CL, CSG, LO, DPL, CIDG, Marikina POs and JICA (office & experts)
May 20, 2011	Project Management Committee	>Expansion of Model >Police District activity Cessation of encoding of C2 fingerprints	DIDM, CL, DO and JICA (office & experts)
Oct 28, 2011	Project Management Committee	>Implementation of Model District Activity, including holding of TWG	DIDM, CL, DO, CIDG, NCRPO and JICA (office and experts)
Jan 17 -18, 2012	Workshop-meeting on project management	>Re-confirmation of project framework >Preparation for PIR and Terminal Evaluation	DIDM, CL, NCRPO and JICA (office and experts)
Feb 1-2, 2012	Project Internal Review and Planning Workshop I	>Clarification of project design including PDM >PO review >Clarification of status of project activity >Outlining of Progress Report	DIDM, CL, NCRPO and JICA (office and experts)
Feb 9, 2012	Project Internal Review and Planning Workshop II	>Confirmation of Indicators >Updating of PO >Introduction of Progress Report >Preparation for PIR	DIDM, CL, NCRPO and JICA (office and experts)
Feb 16, 2012	Project Internal Review and Planning Workshop III	>Confirmation of Indicators >Updating of PO >Introduction of Progress Report >Preparation for PIR	DIDM, CL, NCRPO and JICA (office and experts)
Feb 22, 2012	PIR preparation meeting I	>Preparation for PIR	DIDM, CL, NCRPO and JICA
Mar 8, 2012	PIR preparation meeting II	>PIR rehearsal	DIDM, CL, NCRPO and JICA (office and experts)
Mar 9, 2012	PIR (Project Implementation Review	>Confirmation of Progress including revised PDM >Determination of implementation of Information-drive activity	DIDM, CL, NCRPO and JICA (office and experts)
Nov 26, 2012	Orientation Meeting for Terminal Evaluation	>Introduction of Terminal Evaluation	DIDM, CL and JICA (office and experts)
Dec 3, 2012	Project Management Committee	>Explanation of Terminal Evaluation >Introduction of possible extension of the project	DIDM, CL, NCRPO and JICA (office and experts)
Dec 14, 2012	Technical Working Group meeting I on preparation for Terminal Evaluation	>Clarification of a path to updating of the Progress Report	DIDM, CL and JICA (experts)

Source: Progress Report 2 (February 2013)

9,

#### 4. 主要面談記録

日時	2013年2月18日 13:30-14:00
場所	DIDM
面談者	CORPUZ 捜査局副局長（表敬）
備考	飯利プロマネ、大川専門家が同席

- \* AFIS のような科学的な捜査手法は PNP にとって非常に重要であると認識しており、日本の援助に感謝している。
- \* 日本の協力により、AFIS に関する教養を通じて機動鑑識及び捜査員の技能のみならず、広く警察官の知識・認識が向上していることを高く評価。
- \* 捜査局下部組織である SIDD の捜査員向け教養の常設 4 コースのカリキュラムには既に AFIS に関する内容が盛り込まれている。日本人専門家や専門家により訓練を受けた CL 職員が講義・実習を担当している。
- \* 今後は研修後の捜査員の実践に関する監督、モニタリングを強化していく必要がある。また、ヒット事例を逮捕・起訴、さらに最終的な事件解決につなげていくためには、検察・法曹関係者に対する情報提供・啓蒙も行っていく必要があり、これらの取り組みについても専門家の助言を受けつつ検討を進めていきたい。
- \* PNP に対する他の援助は現在 EU による“EP JUST”のみ。2011 年に終了した前フェーズでは総合捜査マニュアルを策定した。次フェーズについては現在詳細内容を検討中。

日時	2013年2月18日 15:00-16:00
場所	DIDM 会議室
面談者	MACAVINTA CMD 部長、BABAGAY RAD 部長
備考	飯利プロマネ、大川専門家、竹内専門家が同席

- \* 統計的に見ても、AFIS の活用により、特に Property Crime に関する Crime Solution Efficiency Rate が大幅に向上している。過去の事件の被疑者特定や、同一犯による一連の犯行の解明につながった例もあり、今後 AFIS 活用が一層 Institutionalize され、全国でのオペレーション拡大につながることを期待している。
- \* 限られた数の機動捜査隊による現場検証には限界があり、捜査員が遺留指紋を採取するようになったことは、捜査の効率性向上への大きな貢献であったと考えている。
- \* AFIS データベースのデータが充実してきてヒット事例が増加するにつれ、捜査員の興味関心・意欲も高まっており、NCR での実績は、他地域の捜査員の意識向上の面でも啓発となっている。
- \* 問題点・課題は以下の通り
  - ①捜査員の技能のさらなる向上（採取された押捺・遺留指紋の精度）
  - ②研修を受けた捜査員の配置（捜査に携わらない部署への配置、昇進・異動）
  - ③捜査員の意欲向上（指紋採取の労力 VS 事件解決）これらの問題解決のための取り組みとして、①については研修の継続・強化を図っていく必要があり、SIDD の常設専科教養への組み込みが既に行われている。②については研修受講者選定条件の徹底と研修後の配置に関する条件設定などを制度的に行っていく必要がある。③については、PNP 内部の問題ではなく、検察・法曹関係者の AFIS に関する理解・認識向上に向け、PNP として今後組織的な働きかけが必要な領域であると認識。
- \* (AFIS・指紋採取に関する公的なマニュアル・ガイドラインの有無についての当方の質問への回答として) PNP として総合捜査マニュアルがあり、AFIS ないし指紋採取に関しては、各種 Guideline、LOI、SOP が発出されている。

日時	2013年2月18日 16:00-17:00
場所	DIDM Training Center 内 Lecturers' Lounge
面談者	MARQUEZ SIDD 部長、他 SIDD 職員 3 名
備考	大川専門家、竹内専門家が同席

- \* AFIS は PNP、特に捜査局にとって画期的な技術革新であると認識。
- \* SIDD は捜査に関する専科教養機関であり、常設教養コース全て(①Basic Investigators' Course、②Criminal Investigation Course、③Advanced Criminal Investigation Course、④Women and Children's Protection Course)に既に AFIS 関連内容を組み込んでおり、日本人専門家や CL スタッフが教官として講義・演習の指導に当たっている。(プロジェクトが実施する研修のように全ての研修受講者に AFIS キットを配布したいが予算的に困難。)
- \* 上記研修について、事後評価(研修員の実践にかかるモニタリング)は実施していない。研修後の配置(異動)等についてのみ人事局を通じて情報をフォローしている。
- \* プロジェクト・専門家とは様々な形で協力している。TOT(現地国内研修)や Info-drive についても情報・意見交換を行っており、これまでの活動において特段の問題はなかった。
- \* AFIS に関する教養は今後さらに推進する必要があると認識。毎年全体で 1800 万ペソの予算を管区(Region)に配布し、管区 CL を Trainer として CL-HQ の指導監督のもと基礎的な技術に関する教養を実施する予定。
- \* プロジェクトが研修終了者に配布している AFIS キットを真似て、独自予算で First Responders' Kit、Field Investigation Kit を全国各地の警察署に配布する予定。(既に調達済み。)

日時	2013年2月19日 13:00-13:30
場所	Crime Laboratory 所長室
面談者	SABONG CL 所長 (表敬)
備考	竹内専門家が同席

- \* AFIS-1、AFIS-2 の 2 期にわたる日本の協力・コミットメントに深く感謝している。
- \* AFIS 担当部局として、AFIS 活用の効果については十分に認識しており、今後の更なる活用に責任を感じている。
- \* (面談前の)午前中に AFIS 更新に関する NAPOLCOM の会議に出席、説明を行ってきた。CL としては、機材の仕様に関し、現在までに蓄積してきたデータが全て移行できることを絶対条件として強く訴えている。1~2 週間のうちに NAPOLCOM から回答を得られる見込み。

日時	2013年2月19日 13:30-14:30
場所	Crime Laboratory
面談者	GARADO 指紋鑑定課長
備考	飯利プロマネ、竹内専門家が同席

- \* TOT(現地国内研修)と AFIS2 の違いにつき先方より質問。(目的も指導内容も同一、対象が違うのみとの認識であり、現場レベルでの理解に混乱があることが示唆された。当方より説明後、今後は TOT に統一した方が良いのではないかと意見があった。)
- \* 指紋鑑定官の数は限られており、捜査員が指紋採取を行うことで、SOCO の負担が軽減した。押捺・遺留指紋データの数も増えており、AFIS 活用の向上につながっていると認識している。
- \* 一方で、採取指紋の質の向上は依然として課題であり、Readable Ten Prints を増やすために、より一層の技能向上、継続的な研修が必要である。
- \* 現在の AFIS については既に容量の限界に近付いていることへの懸念がある。更新(大容量の AFIS 導入)への期待は高く、手続きが迅速に進むよう関係各所で努力を行っている。
- \* これまでのプロジェクト(及び現地国内研修)の実施において特段の問題はない。専門家とのコミュニケー

ションも良好。

- \* プロジェクトの活動を通じて DIDM との実務レベルでの連携が強化されたことを高く評価している。(組織上、CL は DIDM の下部組織であるが、以前は殆ど連携がなかった。)
- \* 実務的な問題としては、遺留指紋の輸送にコスト・時間がかかることが挙げられる(証拠なので民間の輸送手段が使えない)。
- \* 中・長期的な課題として、ヒットのみならず逮捕、最終的には有罪確定に至る事例を増やしていかなければならない。AFIS の運用維持管理には相当の投入が必要であり、それに見合う成果を挙げて行くことが今後の課題。

---

日時	2013 年 2 月 19 日 15:00-16:00
場所	Crime Laboratory (AFIS Section)
面談者	TEBIA AFIS 係長

---

- \* AFIS1 以来の CL、特に AFIS Section に対する継続的な支援に感謝している。
- \* AFIS セクション職員の技術レベルは日本人専門家の継続的な指導により向上しており、異動も少ないため、技能は維持されている。
- \* 経験を積んだ指紋鑑定官による新人研修や Hands-on が行われており、これらは AFIS2 プロジェクトでも活動の一部として支援・強化されている。
- \* AFIS 職員(及び指紋鑑定官)は今後の PNP としての取り組み(AFIS オペレーションの全国展開など)において、教官としての役割を果たしていくことになることと認識しており、AFIS、指紋の専門技能だけでなく、指導法・教授法を習得することが重要。その点でも AFIS プロジェクト(及び TOT)による教官研修を高く評価している。
- \* これまでの AFIS2 プロジェクト運営においては、常に事前の連絡調整がなされたことから、特段の問題はなかった。ただし、2 つのプログラム(AFIS2 と現地国内研修)が同時進行しているため、研修が連続して行われるという状況が生じ、スタッフに負荷がかかることもあった。
- \* 将来的には AFIS のみならず他の近代的・科学的鑑識技術についても CL への支援を期待している。

---

日時	2013 年 2 月 20 日 09:30-10:30
場所	首都圏警察局本部会議室
面談者	LAXA 警視長、FILART 刑事課長、ACABO 課長補佐、GUIBB 巡査長(AFIS デスク担当)
備考	大川専門家が同席

---

- \* AFIS2 プロジェクトを通じて、PNPHQ 及び NCR レベルでの警察官の認識は大幅に向上したと思料。登録数が大きく増加している一方で、地方では未だ十分に理解されていない面がある。
- \* プロジェクト及び TOT を通じて研修を受けた捜査官の活動によって採取・登録指紋数が増加し、AFIS の機能向上、活用促進につながっている。
- \* NCRPO では AFIS デスク担当官を配置して、Case File、AFIS 入力データ、ヒット数などのモニタリングを行っており、AFIS 活用の効果を実感している(先週は NCRPO に書類が回っただけでも 8 件のヒット)。
- \* 以下の点が問題・今後の課題であると認識している。
  - ① 研修を受けた捜査員の数未だ限られていること(全捜査官の技能向上が目標)
  - ② 研修を受けた捜査員が捜査関係以外の職務を担当していること
  - ③ 採取された指紋の質(精度)の更なる向上が必要であること
- \* 上記②については事件解決と犯罪防止のバランスを勘案し、限られた人員を配置するという観点からは困難な面も多い。パトロール強化の Regional Directive のため、多数の捜査員が PCP 配置となりバランガイ巡回を担当していたため、研修成果を十分に発揮できない面があった。ただし、2 週間前に(大規模な商業施設での白昼強盗事件を機に)新たな Directive が発出され、パトロールから捜査員を引き上げ、Convergence Area への配置とともに捜査関連部署に配置することとなった。本変更に伴い、プロジェクト

で研修を受けた捜査員による実践が期待される。

- \* 中・長期的な観点からは、AFISの活用を一層推進し、捜査の最終目標である逮捕・起訴、さらには事件解決にまでつなげていかなければならないが、そのためには検察・法曹関係者のAFISにかかる知識・理解の促進が必要不可欠。(SOCOではなく捜査員が検察側の証人になること自体が新しいことであり、証人の専門性に対する信頼も確保されていない。)
- \* 現在のLOIでは、捜査員による指紋採取はMinor Property Crimeに限定されており、SOCOとの「棲み分け」がなされている。より重要な事件(犯罪類型)にまで捜査員による現場検証を拡大するためには、上述の通り、法曹関係者の理解レベル、捜査員の技能レベルの向上が必要。

---

日時	2013年2月20日 10:30-11:30
場所	首都圏警察局本部会議室
面談者	QUENERY 東部方面警察本部長、LOPEZ Marikina 署長、RARIZA Pasig 署長
備考	大川専門家が同席

---

- \* (EPD 部長) JICA 協力に感謝するとともに、EPD がモデル警察方面として実績を上げることができたことを誇りに思っている。プロジェクトにより、捜査員への3回の研修、Supervisor への1回のセミナーが実施され、意識・技能の両面で大きな改善が図られた。
- \* (Pasig 署長) 現職に配置されたのは2012年の8月であったが、着任後1カ月の時点でプロジェクト専門家及びDIDMによる巡回指導を受け、研修を受講した捜査員の活動実績が低いとの指摘を受けた。署内での改善を図り、捜査員の交通手段確保支援なども行った結果、2か月足らずで成果を上げることができ、高い表彰実績も達成することができた。
- \* (Marikina 署長) 研修を受講した捜査員は努力を続けており、署内での Re-Echoing(職員間研修)も行っているが、パトロール配置などもあり、研修成果を全員がフルに発揮できないことが問題であると認識。
- \* 捜査員による現場検証、指紋採取を促進する要因として、最終指紋がヒットするという経験は重要であり、ヒットが出てから、捜査員の士気が向上したと実感している。
- \* PNP は未だ軍隊的な文化・慣行の強い組織であり、上司の姿勢も捜査員の意欲に影響する。熱心な取り組みが直属の上司に評価されないという状況もあり、その意味で、プロジェクトが捜査員への技術研修のみならず Supervisor に対するセミナーも併せて実施したことは有意義だった。
- \* 現場の警察官に複数の業務が与えられていること(Multi-Tasked)、活動のためのリソース(例えば臨場のための交通手段等)が不足していることなども、構造的な制約となっている。
- \* SOCO とは犯罪類型上の棲み分けができており、「何故捜査員が現場検証を担当するのか」的な抵抗感はない。むしろ小規模多数の事件を捜査員に担当してもらうことで、より重要な事件に集中できるとして歓迎されている。
- \* これまでのプロジェクト活動において、連絡調整も含め、専門家、HQ カウンターパートとの関係は極めて良好。専門家による現場指導も非常に有益であり、現場の士気向上に貢献している。
- \* 将来的な展望としては、まず AFIS データベースの拡充(他の政府機関の有する指紋データベースとの統合の可能性検討を含む)が重要。指紋採取技術の更なる向上(最終指紋の精度の向上)についても継続的に取り組んでいく必要がある。

---

日時	2013年2月20日 13:30-14:30
場所	首都圏警察局本部会議室
面談者	AFALLA Sampaloc 署長、ALILING 捜査官(マニラ方面)、RUBA Valenzuela 署刑事課長(北部方面)、DELA PEÑA Muntinlupa 署長、DELA CRUZ Makati 署刑事課長(南部方面) PAGDILAO ケソン市方面本部長
備考	大川専門家が同席

---

- \* 以前は全ての事件に関して SOCO に頼っており、現場検証の効率・質的な問題があった。住宅と商業施

設が混在している地域では Minor Property Crime も多く、捜査員だけで現場検証が行えるようになったことは画期的。

- \* AFIS 活用により、銀行(BPI)強盗の被疑者が特定される(本事例については25日の調査団との会合においてプレゼンを予定)など、特筆すべき事例も挙がっている。過去の事件や、他地域で起きた事件の被疑者特定につながる例もあり、捜査における AFIS の貢献を強く認識している。
- \* 署内での Re-Echo は、研修を受けた捜査員型の捜査員による現場検証に同行し、指導を行う形(Hands-on)で実施している。ただし、指紋採取自体は、研修受講者のみが行っている。(規定・通達による指示なのか要確認。LOI 01-12 第8項には、「Minor Property Crime の現場検証を行うことを認められるのは NCRPO が選定した捜査員」との記載がある。)
- \* 今後への課題としてまず、採取した指紋の精度の問題がある。個々人の技能の向上のための更なる研修と実践経験の蓄積、また、より多くの捜査員に対する研修の必要がある。
- \* また、せっかくヒットしても、被害者が立件に同意しない例も多い。理由として、犯罪組織からの報復への恐怖、煩雑な司法手続への躊躇、警察への信頼の不足・不信感、あるいは軽微な盗難等では、盗難物が返却・弁償されればいいという被害者側の意識の問題が考えられる。
- \* さらに、現場検証のための道具・消耗品等の適時・適切な入手(例えばアルミニウム粉)についても課題があると思料。(PNP が組織的に解決すべき問題)
- \* NCRPO は各方面に対し定期的な Inspection を行っているが、AFIS 関連の捜査員の活動モニタリングはプロジェクトによって行われている。
- \* (本邦研修参加者への「最も印象的であった点は何か」という質問に対し)日本研修では、警察官の規律正しさ、警察の秩序だった組織運営、先進技術に感銘を受けた。また、市民が警察に対して高い信頼と尊敬を持っていると感じた。

---

日時	2013年2月20日 15:30-16:30
場所	首都圏警察局本部会議室
面談者	ARANAS CL 総務課長

---

- \* AFIS の潜在可能性はデータベースの大きさに依存している。プロジェクトによる DIDM の協働を通じ、捜査員が指紋採取に携わるようになったことの効果は大きいと評価。2年前の1週間に数件のヒットが出るか出ないかという状況に対し、今では1日に数件のヒットが報告されるようになった。
- \* AFIS 更新によってさらに大容量のデータを処理できるようになれば、捜査、事件解決への大きな貢献になると期待している。
- \* (国民悉皆押捺、他の政府機関のデータベースとの連携という考え方に関する質問に対し)基本的には当面、犯罪者の指紋に限って取り扱うべきと考えている。国家調査局(NBI)や他の政府機関のデータベースとの統合は技術的にも相当先の話であると思料。
- \* 研修に関しては、既に LOI01-2013(現地国内研修に関する LOI)が発出されており、現在実施計画(ImPlan)を作成中。TOTによってAFISオペレーションが全国展開することに大きな期待を持っている。なお、同 LOI では、研修後の捜査員が指紋採取をしない場合処罰(Disciplinary Measure)の対象となる、というような事後義務設定もなされており、PNP としての組織的意思の表明と理解。
- \* TOT に関しては、CL がモニタリング評価を行い、DIDM に報告、DIDM が必要な措置を講じるという流れになっているが、捜査員による指紋採取一般についてのモニタリングを強化する必要もあると考えており、今後、モニタリングに関する LOI 発出に向けた検討・準備を進めて行く予定。
- \* AFIS 登録に関するデータは CL で収集・管理しており、定期的に関係各所にフィードバックしている。

---

日時	2013年2月21日 09:00-10:00
場所	JICA フィリピン事務所会議室
面談者	JICA ナショナルスタッフ Ms. BAKISAN、Ms. PARRENAS

---

- \* 本プロジェクト及び現地国内研修(ICTP)の運営管理に関しては、Capability Enhancement Management Team(CEMT)として JICA フィリピン事務所のナショナルスタッフが実施機関、専門家に協力している。CEMT は、AFIS1 の終了時評価において、プロジェクトの運営管理の問題が指摘されたことを受け、PNP のプロジェクト運営能力強化に対する支援を行うために設置された。
- \* ICTP の実施機関である CL に対しては、CEMT がプロジェクトマネジメント関連のセミナーや研修を行い、計画立案・準備段階から十分に彼らを巻きこんで活動を行ってきた。AFIS2 プロジェクトの活動は ICTP と共通する部分も非常に多く、CEMT は DIDM に対しても運営能力強化のための協力を行ったが、CEMT が組織された時点でプロジェクト活動は既に始まっていたため、AFIS2 への支援は CL 支援に比べ部分的・限定的なものとなった。具体的には PIR の準備会合、今般評価の準備会合等に招かれるという程度の関与であり、2012 年 2 月の PDM 指標改訂等、重要な側面には関与していない。
- \* (ICTP の実施プロセスに参加した経験から)CL スタッフの研修指導能力は向上してきている。HQ-CL スタッフの半数以上は既に Trainer として経験を蓄積しており、自信を持っていると思われる。

---

日時	2013年2月21日 13:30-15:30
場所	CL DNA 棟会議室
面談者	CAYABYAB CL 長、SALVACION 鑑定官(東部方面 CL) SALEO CL 長、SUCGANY 鑑定官(マニラ方面 CL) BONIFACIO CL 長、VALLESFIN 鑑定官(北部方面 CL) VILLARALBO CL 長、NULUD 鑑定官(南部方面 CL) CHUA CL 長、PIANZA 鑑定官(ケソン市方面 CL)

---

- \* AFIS は犯罪者の特定のみならず、身元不明者、災害被害者等の特定にも非常に効果的であり、今後一層活用していくべきと思料。
- \* 捜査員が現場検証を行えるようになったことは、SOCO にとって大変 Helpful であると認識している。
- \* プロジェクト及び現地国内研修による教養には座学のみならず SOCO チームによる OJT が組み込まれており大変実践的、効果的であると評価。
- \* 未だ研修を受講していない捜査員も多いので、是非研修を継続実施して欲しい。
- \* 問題点としては、①研修受講者が捜査関係以外の仕事を担当している、②昇進のキャリアパスとリンクしていない(?), ③複数業務を担当している、あるいは事件自体が少ないため、研修で習得した技能を実践経験を蓄積することが困難、④(捜査員の活動に対する上司の)適切な監督・モニタリングがなされていない、等が挙げられる。
- \* 捜査員のレベルでの関心は高く、ヒット件数の増加により意欲も高まっていると感じている。
- \* 将来的な課題として、データベースの拡充が最も重要。NBI との連携なども検討すべき。
- \* (本邦研修参加者への「最も印象的であった点は何か」という当方に対し)日本では Live Scanner など、大変高度な先進技術が採用されていることが一番の印象。将来的に例えば Palm Print に関する日本の支援を期待したい。(当方からは、PNP が継続的に維持できるのかという点を指摘。)

---

日時	2013年2月22日 10:30-11:45
場所	Marikina 署
面談者	LOPEZ 署長、LAISON、AGUADO、BALDESCO、ORSAL 巡査長
備考	大川専門家、大野専門家が同席

---

- \* AFIS2 プロジェクトへの参加によって、捜査員が指紋採取技術を習得し、現場検証を行う自信を得た。
- \* 以前は遺留指紋を SOCO に処理してもらうのに数週間を要することもあった。AFIS によって捜査プロセスが迅速化した。



- \* ヒットが出たことで、署内捜査員の意欲が高まった。より高度な技術習得への動機づけともなっている。
- \* より多くの研修を通じて、指紋採取技術を向上させたい。
- \* SIDD のみならず他の機関による教養(大学等の Criminology のコース?)においても AFIS・指紋に関する知識・技術を教えることが必要。より多くの警察官が AFIS・指紋に関する正しい理解・認識を持つべき。
- \* 実務レベルでの問題は、必要な資機材・消耗品の適切な入手(例えばアルミ粉、Magnetic Powder など)。
- \* 組織的には、他の業務との兼ね合いで臨場の機会が限られ、実践経験が少ないことが問題。
- \* また、現時点では、「証拠としての指紋」の重要性に関する検察・司法関係者の理解が不足している。
- \* これまでのプロジェクト活動において、専門家とのコミュニケーション、連絡等に問題はなかった。
- \* (本邦研修参加者への「最も印象的であった点は何か」という質問に対し)日本研修では、先進的な技術が実際に活用されていることと、警察官の規律を重んじる態度が最も印象に残った。

---

日時	2013年2月22日 15:30-16:30
場所	Pasig 署
面談者	RARIZA 署長、YAP、SAYSON、MAYLAS、PRADO、BALDONADO 巡査長
備考	大川専門家、大野専門家が同席

---

- \* AFIS は現場レベルの捜査活動にとって大きな助けとなっている。捜査員が指紋採取を行うようになり、現場検証に要する時間も大幅に短縮した。(以前は数時間かかっていた現場が1時間程度で検証できるようになった)。
- \* 今後、SOCO による遺留指紋データ処理がより迅速化されれば、捜査効率はさらに改善すると期待。
- \* 実務レベルでの問題として、現場保全の難しさが挙げられる。通報者が現場を荒らしてしまうことが多い。署単位で一般市民に対する啓発活動を行うことは困難であり、今後 PNP として取り組みが必要。
- \* 指紋採取に必要な道具・消耗品の適時・継続的な入手を懸念している。(大川専門家から情報提供)
- \* 今後は、ヒットを逮捕につなげていくことが課題。
- \* 署内での Re-Echo も行われており、他の捜査員の技能も徐々にではあるが向上してきている。
- \* (BALDONADO 巡査長:研修受講後、現在 OJT 実施中)研修時の実習のみならず、SOCO による OJT を通じて多くの実践的な学びを得ている。
- \* (SOCO でなく捜査員が現場検証することへの被害者の抵抗の有無に関する大川専門家からの質問に対し)被害者から(「SOCO を呼ばないのか」との)質問を受けることはあるが、訓練を受けていることを説明し、納得してもらっている。また、プロジェクトから配布された AFIS キットは説得材料として有効。
- \* (将来的に、SOCO が担当しているような事件まで担当する自信はあるかとの質問に対し、数名が)より高度な技術(薬品による指紋検出)を習得し、Minor Property Crime 以外の事件も担当できるようになりたい。(他の数名からは)そのためにはまず Minor Property Crime の経験を積む必要がある。
- \* (本邦研修参加者への「最も印象的であった点は何か」という質問に対し)日本では捜査のための様々なツール(例えば人血判定薬など)が使われている。また、警察官の献身的な職務態度(Dedication)には感銘を受けた。(さらに、高度な技術があれば自分達も日本警察のような成果を上げられると思うかとの質問に対し)日本のように高度な技術を駆使することはできないが、警察官として、事件解決への熱意は共通している。

---

日時	2013年2月26日 10:45-11:15
場所	PNP 本部長官室
面談者	PNP プリシマ長官、Montenegro 捜査局長、SavonCL 所長
備考	飯利プロマネ、大川専門家、竹内専門家が同席

---

冒頭、PNP 長官からの JICA 協力への謝辞が述べられた後、以下のとおり意見交換。

(プリシマ長官)

捜査員が質の高い捜査を行うことができるようになることを目指している。JICA プロジェクト支援に(表彰制度の導入)より首都圏における警察署間での競争意識も芽生えている。

(子浦団長)

プロジェクトが広く効果をもたらしていることは喜ばしい。AFIS の機材については、更新(リプレイス)が予定されていると認識しているが、状況は如何に。

(プリシマ長官)

指紋の活用を通じた捜査能力の向上のためにも AFIS は必要と認識しており、調達する予定。指紋の活用は捜査員にとっても科学的証拠となるという点からも利のあることである。一層の活用のためにも 5000 人の捜査員を含む PNP の職員については指紋の登録を義務付けることを予定している。

(子浦団長)

PNP 内に AFIS や指紋の効果を広く知らしめる普及の観点からも有効な手段と思料する。

(プリシマ長官)

10 指指紋について、システム登録に適さない不鮮明なものを極力なくすよう質の向上をする必要がある。

(子浦団長)

これまでの調査におけるヒアリング等から、地方で採取した指紋の本部科学犯罪研究所(CL: Crime Laboratory)に送付についても、課題の一つであると聞いた。

(プリシマ長官)

指紋の採取を行わない、送らない捜査員が多いのは能力が不足しているからであり、一層の能力強化が必要である。

(子浦団長)

今次調査では Fact Finding を中心に行い、帰国後レポートにまとめて、改めて報告のために来比する予定。

(プリシマ長官)

レポートにはぜひ実態をそのまま記載いただきたい。美しく整えたレポートよりも、役立つレポートのほうが、その後の改善に有益である。理想的な捜査の実現が一足飛びに為せるとは考えていない。

(子浦団長)

これまでの調査から、プロジェクトの着実な(Steady)進捗は確認できているが、飛躍的な(Jumping)改善に結びついているとまでは言えない。

PNP では、民間人(Civilians)を一定数追加で採用する予定があると聞いたが、如何に。

(プリシマ長官)

民間人に捜査員は無理であるが、例えば科学犯罪研究所(CL)で活躍してもらうことはできると考えている。民間人のほうが、退職年齢が(10 年ほど警官に比べて)高いので、ラボでの専門的な業務には効果的である。

(モンテネグロ捜査局長)

フィリピンの他の機関で、AFIS を使っている機関はないか。

(飯利プログラムマネージャー)

EFA, SSS, が AFIS を導入していると認識している。

(PNP 捜査局長)

それら機関と PNP の AFIS データベースとを統合することも可能か。

(プリシマ長官)

国家レベルで活用できるような形で大きなデータベースとなれば、その分ヒットの可能性も高まるものと認識している。

(子浦団長)

容量が大きい仕様の AFIS 機材を調達すれば、可能性も広がるものと考える。

日時	2013年2月22日 15:30-16:30
場所	PNP 装備局
面談者	PNP ペレス装備局長、ガンボア課長
備考	飯利プロマネ、大川専門家が同席

以下のとおり、AFIS更新に向けた状況につき、聴き取りを行った。

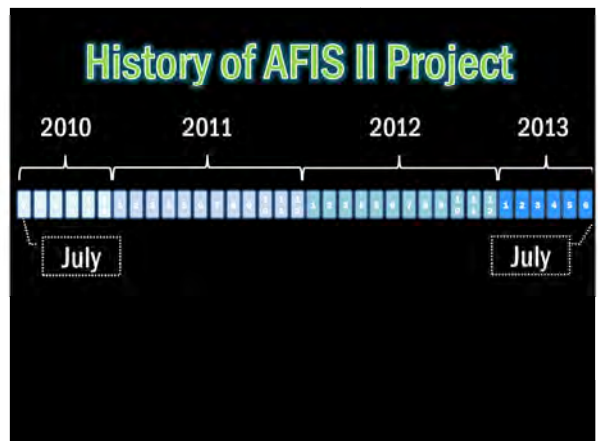
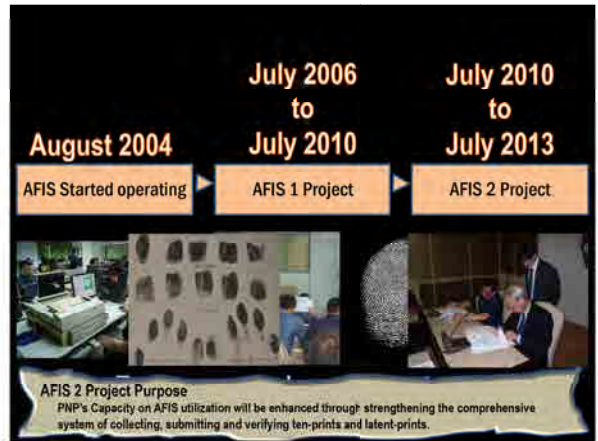
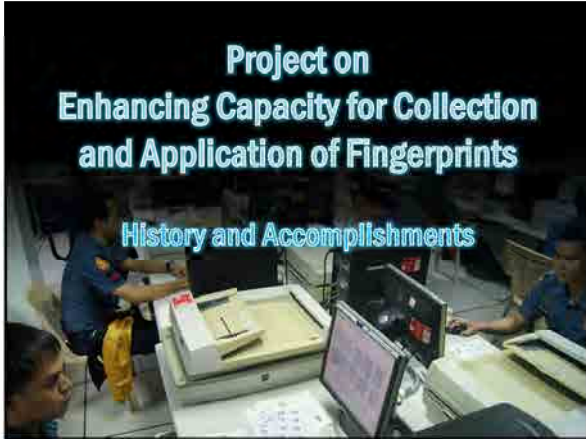
- (1) PNPの設備投資予算として、Capability Enhancement Programの名称で、毎年20億ペソが確保されているが、AFISリプレイスについては、2009-2010年度のAnnual Procurement Planに計上されていた銃器調達のための予算の未使用分(3.6億ペソ)のうち、2.7億ペソを充当することを予定している。
- (2) 現PNP長官は捜査に重点を置いていることもあり、当該3.6億ペソについて、AFIS更新等の捜査関連資機材に充当するべく、Project Procurement Management CommitteeにてProject Procurement Management Planを修正<sup>1</sup>して、2012年末に財務省に提出した。(したがって、予算自体の確保はできている。)
- (3) 今後のスケジュール

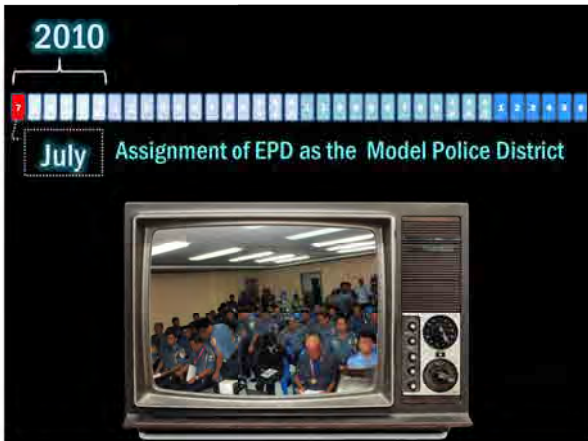
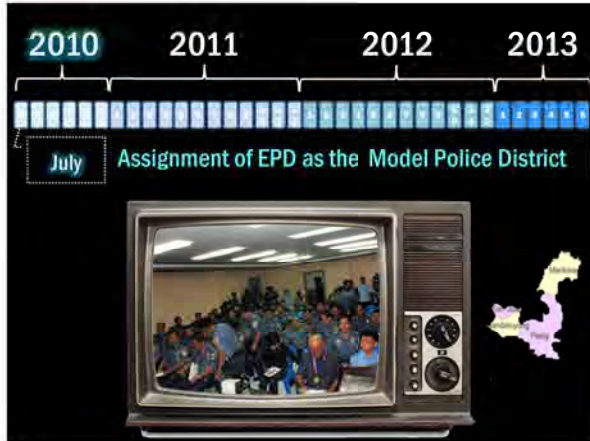
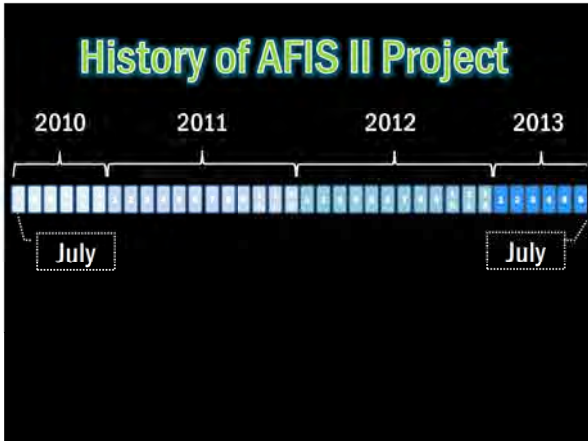
ステップ	実施時期目安 (PNP装備部からの聴取)
①財務次官が議長を務めるGovernment Procurement Policy Board (GPPB)にて、3.6億ペソの過年度予算(2009-2010年銃器購入残予算)を今年度の新たな用途(AFIS更新用の2.7億ペソを含む)に充当することの法的妥当性を確認する	3月第2週
②その確認を経て、PNP内のNational Headquarters Bid and Award Committee(NHQ-BAC)にて協議する。	3月第2週
③同委員会(NHQ-BAC)のRecommendationが作成され、PNP長官の承認を経て、2013年度調達計画(Annual Procurement Plan 2013 <sup>2</sup> )の修正が行われる。	
④その後、財務省調達係(Procurement Service-Department of Budgetary Management)にて調達手続が開始される。	ここまで最短で2週間ほど
⑤共和国法9184(Republic Act No.9184: Government Procurement Reform Act)に基づき、調達手続が実施される。	所要期間は、最速で28日、最遅で124日。PNP関連の調達での標準期間は55日程度。
⑥調達結果に基づき、データ移行等に関するBackward Compatible Testを経て、National Proceed Purchase Order(NTP-PO)が発出される。	NTP-POの送達に6日ほど。

<sup>1</sup> なお、Project Procurement Management Planについては、6か月を目途に現場での状況・ニーズに応じて、通常見直しているものであり、今次修正についても特別なものではない。

<sup>2</sup> 現行の2013年度調達計画にAFISの更新は含まれていない。

5. PNP CLによる総括プレゼンテーション資料







2010

Oct FP Seminar for Chief of Police Stations at EPD

2010 2011

2011

Mar Issuance of LOI 02/11 (Nationwide Tenprint collection)

2011

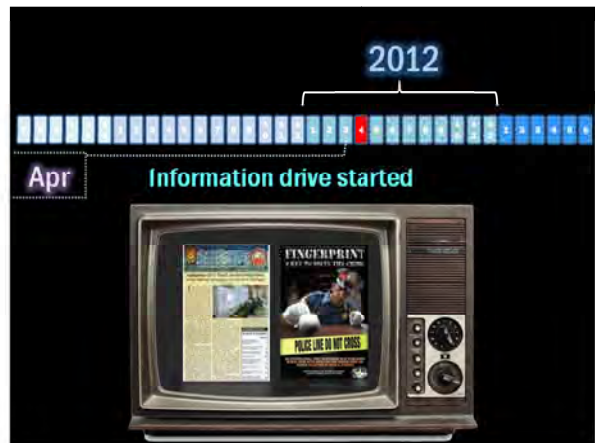
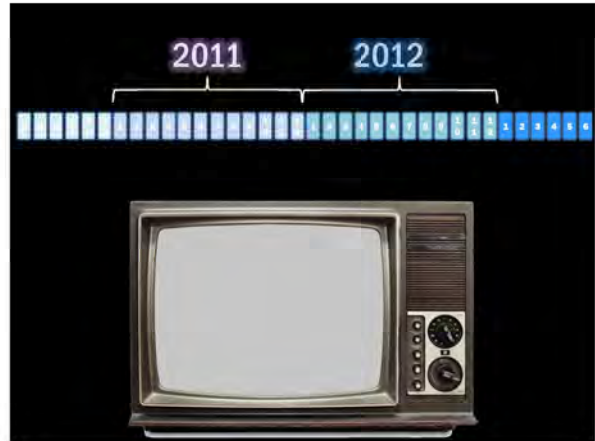
May Expansion of the Model Police Activity to the whole NCR

2011

Jun Dispatch of 2 AFIS operators for advanced training in Japan

2011

Jun - Aug FP seminars for SOCO and investigators in NCR



2012

Sep Seminar for Chief of Police Stations in NCR

2012

Nov-Feb Preparation for the Terminal Evaluation

2012 2013

2013

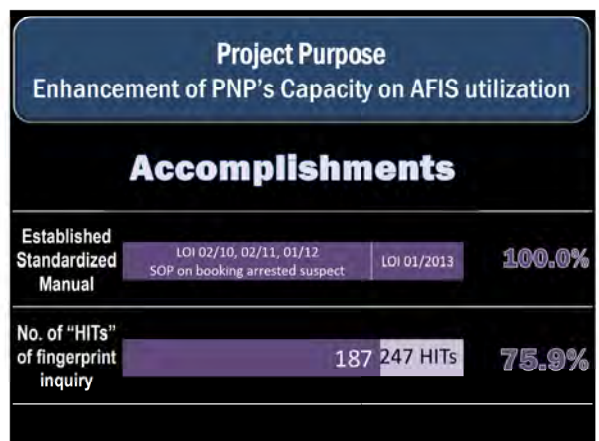
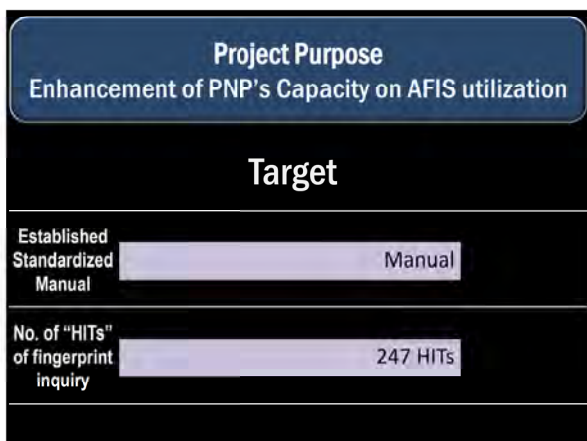
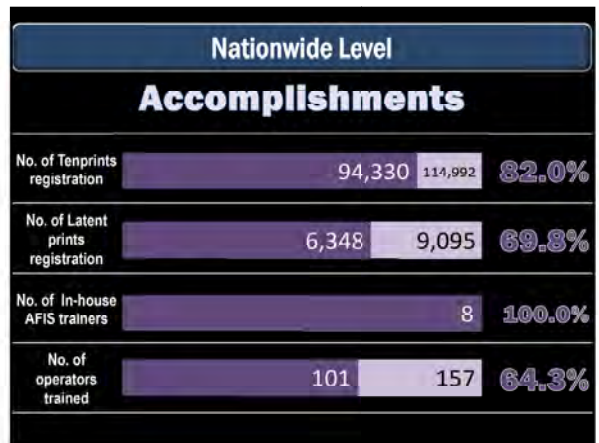
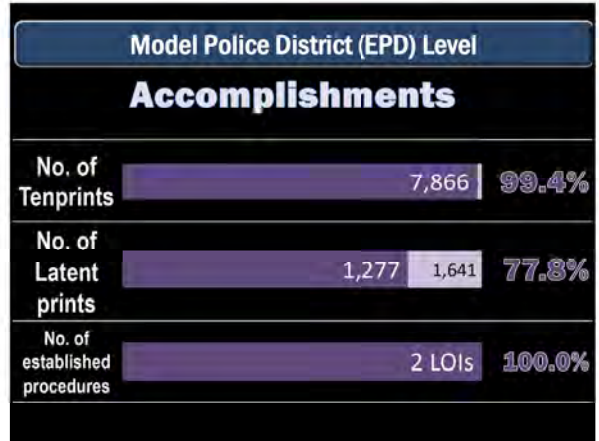
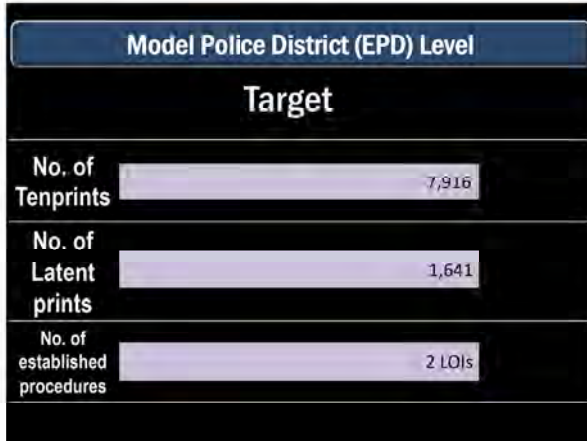
Jan Issuance of LOI 01/2013 ( Nationwide ICTP )

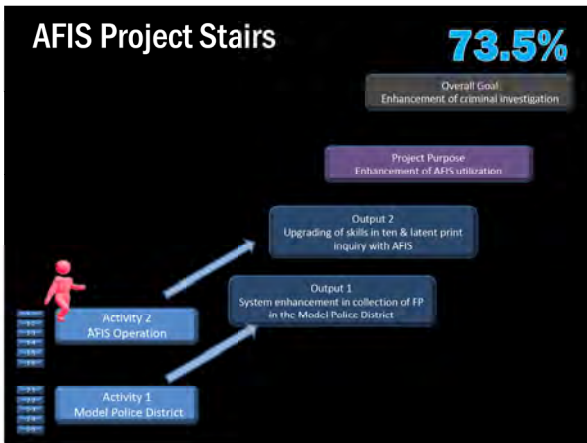
2013

Feb-Apr Terminal Evaluation

**Accomplishments**







**Lessons Learned**



